

共通教育科目

コード	履修科目名	(担当教員)			
b11001100 :	種智院学	(佐伯 俊源)			
単 位	1	期 別	春前半	学 年	1年次～

到達目標

本学の「建学の精神」への理解が深まる
各人が本学で学ぶ意義を形成できる

キーワード

綜藝種智院 弘法大師空海 建学の精神

事前・事後学習

事前学習:特に必須ではないが、授業テーマを参照し、各自調べたことをノートにまとめてくること
事後学習:毎回の授業後に、重要な点や印象深い点などを文章コメントとして記述し、提出すること

授業内容

学生諸君が所属する種智院大学は、弘法大師空海が設立したわが国最古の庶民教育のための私立学校「綜藝種智院」を源流とする歴史と伝統のある大学である。本講義では、この「種智院」の歴史的由緒と存在意義について講義を行う。

受講生諸君には、自分が所属し勉学に励む母校である本学の独特な建学の精神、歴史的歩み、個性的特徴などについて、しっかりと理解を深めてもらいたい。そして、この講義をきっかけとして種智院大学の学生として誇りを持って、それぞれの専門分野の学習に邁進してもらいたい。

成績評価方法

平常点(出席を最重視):70%
受講態度:30%

課題に対するフィードバック

レポートは評点の上、後日返却する

授業計画

1. 本学で学ぶ学生へ
2. 本学園の歩み
3. 弘法大師空海の生涯1
4. 弘法大師空海の生涯2
5. 真言密教の教え
6. 綜藝種智院式と空海の教育理念
7. 空海と社会福祉
8. 大学での学びと将来への展望

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 特になし。担当教員が適宜資料を配付する。
《参考文献》 テーマに即して適宜紹介する。

その他

全8回
順番は入れ替わる可能性あり
新入年次に履修することが望ましい

コード	履修科目名	(担当教員)			
b11002100	仏教入門A	(今井 淨圓)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	1年次～

到達目標

仏教を学ぶための基礎知識を会得して、人に説明することができる。

キーワード

ブッダ(釈尊・世尊・釈迦)、初期仏教、大乘仏教。

事前・事後学習

必ず、予習として教科書を読み、復習として授業中に紹介した先行研究や参考文献を図書館で調べる。

授業内容

仏教の開祖であるブッダの生涯(出生、出家、成道、初転法輪、伝道、入滅涅槃)を通して、初期仏教の根本思想を学びます。そして、釈尊以降の仏教教団の展開、仏教者の生活(戒律)を概観します。次に、初期仏教や部派仏教を説明し、大乘仏教に移行して、それぞれの仏教を代表する經典のいくつかを紹介しながら、その仏教經典の内容を概説します。

成績評価方法

平 常 点 20%(出席状況。授業中の態度も評価の対象になります)
レポート点 20%(締め切りを厳守。その内容を評価します)
定期試験 60%(その内容を評価します)

課題に対するフィードバック

提出された小レポートやノートに対してコメントをつけて返します。あるいは小レポートを回収後、解説を行います。

授業計画

- | | |
|-----------------------------|---------------------|
| 1. 仏教が生まれる以前の古代インド | 9. 仏教教者の生活 ―戒律とは何か― |
| 2. 古代インドの宗教世界と仏教の位置づけ | 10. 仏教教団の成立と展開 |
| 3. 釈尊の生涯－1 | 11. 部派仏教の時代 |
| 4. 釈尊の生涯－2 | 12. 大乘仏教運動の始まり |
| 5. 釈尊の生涯－3 | 13. 大乘仏教の經典－1 |
| 6. 釈尊の生涯－4 | 14. 大乘仏教の經典－2 |
| 7. 釈尊の教え－1 (四諦八正道・十二縁起) | 15. まとめ |
| 8. 釈尊の教え－2 (輪廻転生・解脱・涅槃・三法印) | |

テキストおよび参考文献等

- 《テキスト》 佐々木閑 『ゴータマは、いかにしてブッダとなったのか』 NHK出版新書 399
 作々木閑 『大乘仏教 ブッダの教えはどこへ向うのか』 NHK出版新書 572
 ならびに、講義時に補足のプリントを配布します。
- 《参考文献》 中村 元 他『岩波仏教辞典』 岩波書店
 その他、必要に応じて、講義の中で紹介します。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b11002200 :	仏教入門B	(児玉 義隆)			
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	1年次～

到達目標

- ・空海の生涯において行った社会事業・社会活動が説明できる
- ・空海の思想や真言宗の歴史が理解できる

キーワード

仏教、密教、空海

事前・事後学習

事前:テキスト指定範囲を予習する。登場する人物・時代について下調べをしておく。特に専門用語について学習すること。

事後:特殊な用語について読みを付しておくこと。

授業内容

真言宗の開祖であり、本学の開創者である弘法大師空海の生涯と思想について学ぶ。綜藝種智院の創設・満濃池の修復工事等教育や社会活動、さらに真言宗の歴史についてふれる。また、空海の思想や真言宗の教理とはいかなるものであるのかを解説する。

成績評価方法

平常点(出席状況および授業態度による)50%、定期試験50%により評価する。

課題に対するフィードバック

最終授業時に全体に向けたフィードバックを行う。

授業計画

1. 仏教の伝来①
2. 仏教の伝来②
3. 空海の生涯① 誕生から青年期
4. 空海の生涯② 入唐求法
5. 空海の生涯③ 密教受法
6. 空海の生涯④ 真言宗開創
7. 空海の生涯⑤ 真言宗開創
8. 空海の生涯⑥ 入定
9. 綜藝種智院の創設、満濃池の修復
10. 空海の著作①
11. 空海の著作②
12. 空海の書と梵字
13. 空海の伝説と弘法大師信仰
14. 映画『曼荼羅－若き日の弘法大師・空海』鑑賞
15. 映画『曼荼羅－若き日の弘法大師・空海』鑑賞

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 頼富本宏『平安のマルチ文化人空海』NHK出版 2005年
(絶版の場合はプリントを用意して配付する)

《参考文献》

その他

【授業担当者の実務歴】真言宗僧侶 永福寺住職

コード	履修科目名	(担当教員)			
b11003100	宗教と福祉A	(佐伯 俊源)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	1年次～

到達目標

世界の諸宗教について理解が深まる
福祉の諸問題について理解が深まる
宗教と福祉の連関について理解が深まる

キーワード

宗教 福祉 フィラントロフィー
一神教 ユダヤ教 キリスト教 イスラム教

事前・事後学習

事前学習:特に必須ではないが、授業テーマを参照し、各自調べたことをノートにまとめること
事後学習:毎回の授業後に、重要な点や印象深い点などを文章コメントとして記述し、提出すること

授業内容

宗教も福祉も、ともに人間がよりよく生きることを究極の目的とする点で同じ基盤を共有している。その両者はともに人間生活にとって不可欠の要素であると同時に、お互いに密接に関わり合いながら歴史上展開してきた。その具体的な様相を、世界各地の宗教・福祉・社会の状況に応じて理解することを目的としたい。春学期・秋学期は別の講義であるが、連続して受講することが望ましい。
春学期(A)では、世界の宗教を外観した上で、主に西洋の一神教的宗教を取り上げ、その個別的特徴と、その社会救済の思想や実践のあり方について概観したい。
秋学期(B)では、アジア的宗教、特に仏教とその福祉をテーマに取り上げて理解を深める。また時間があれば、神道をはじめとする日本固有の宗教とその福祉についても考えてみたい。
それらをふまえて、諸宗教を横断する形で、人間・社会に関わる諸問題への宗教的関与のあり方について考察を深めたい。

成績評価方法

平常点(出席、受講態度など):50%
講義内容に関する定期試験もしくはレポート:50%

課題に対するフィードバック

定期試験後に文面・口頭でフィードバックを行う

授業計画

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1. 序論 | 9. キリスト教とその福祉① |
| 2. 総論 宗教と福祉 | 10. キリスト教とその福祉② |
| 3. 世界の諸宗教 概観① | 11. キリスト教とその福祉③ |
| 4. 世界の諸宗教 概観② | 12. イスラム教とその福祉① |
| 5. 西洋古典古代思想と福祉 | 13. イスラム教とその福祉② |
| 6. ユダヤ教とその福祉① | 14. イスラム教とその福祉③ |
| 7. ユダヤ教とその福祉② | 15. 総括 |
| 8. ユダヤ教とその福祉③ | |

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 授業中に資料プリントを適宜配布する。
《参考文献》 講義内容に即して授業中に適宜紹介する。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b11003200	宗教と福祉B	(佐伯 俊源)			
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	1年次～

到達目標

世界の諸宗教について理解が深まる
福祉の諸問題について理解が深まる
宗教と福祉の連関について理解が深まる

キーワード

多神教 バラモン教(ヒンズー教) 仏教 仏陀釈尊の生涯

事前・事後学習

事前学習:特に必須ではないが、授業テーマを参照し、各自調べたことをノートにまとめてくること
事後学習:毎回の授業後に、重要な点や印象深い点などを文章コメントとして記述し、提出すること

授業内容

宗教も福祉も、ともに人間がよりよく生きることを究極の目的とする点で同じ基盤を共有している。その両者はともに人間生活にとって不可欠の要素であると同時に、お互いに密接に関わり合いながら歴史上展開してきた。その具体的な様相を、世界各地の宗教・福祉・社会の状況に応じて理解することを目的としたい。春学期・秋学期は別の講義であるが、連続して受講することが望ましい。春学期(A)では、世界の宗教を外観した上で、主に西洋の一神教的宗教を取り上げ、その個別的特徴と、その社会救済の思想や実践のあり方について概観したい。秋学期(B)では、アジアの宗教、特に仏教とその福祉をテーマに取り上げて理解を深める。また時間があれば、神道をはじめとする日本固有の宗教とその福祉についても考えてみたい。それらをふまえて、諸宗教を横断する形で、人間・社会に関わる諸問題への宗教的関与のあり方について考察を深めたい。

成績評価方法

平常点(出席、受講態度など):50%
講義内容に関する定期試験もしくはレポート:50%

課題に対するフィードバック

定期試験後に文面・口頭でフィードバックを行う

授業計画

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 1. 序論 | 9. 釈尊の福祉的生涯と仏教の宗教的特質③ |
| 2. 総論 宗教と福祉 | 10. 仏教の福祉救済思想と実践① |
| 3. 世界の諸宗教と福祉 概観 | 11. 仏教の福祉救済思想と実践② |
| 4. バラモン教とその福祉① | 12. 仏教の福祉救済思想と実践③ |
| 5. バラモン教とその福祉② | 13. 日本の諸宗教とその福祉① |
| 6. バラモン教とその福祉③ | 14. 日本の諸宗教とその福祉② |
| 7. 釈尊の福祉的生涯と仏教の宗教的特質① | 15. 総括 |
| 8. 釈尊の福祉的生涯と仏教の宗教的特質② | |

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 授業中に資料プリントを適宜配布する。
《参考文献》 講義内容に即して授業中に適宜紹介する。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b11004100	人権思想(人間らしく生きるとは)	(田中 和男)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	1年次～

到達目標

各自の「人権」を侵害する(される)ことの問題性を認識する

キーワード

人権、「倭」から「日本」へ、仏教の定着、身分差別、市民革命、平等、鎖国と開国、カリタス、自然権、社会問題、福祉国家、水平社、グローバル化、ジェンダー、マイノリティ、子どもの権利、共生社会、国際人権、感染症と人権

事前・事後学習

日頃、日本や世界の動きに注目してください。授業で配布する授業で行うレジュメの予習や確認をお願いします。授業の際のキーワード確認チェックを完成し、次の授業で提出すること。

授業内容

人が個人として尊重され、個性や幸福を追求することは人権の尊重として憲法で条文化されたり、日常の生活に生かされていることは、皆さんもよく知っているでしょう。でも、江戸時代には士農工商の身分差別があり、現在18歳以上の選挙権も、1925年に25歳以上の男子のみに保障され、1945年になって20歳以上の男女に認められるようになったのです。現在は当たり前の人権保障は、これまでの人々の努力によってようやく実現できたのです。この授業では、日本と現在に焦点を当てて人権を定着してきた歴史と思想的背景を考えていきます。長いコロナ禍の生活の中でも様々な人権にかかわる問題が発生しているといわれています。皆さんも他人事としてではなく自分の問題として考えていただきたいと思います。

成績評価方法

課題レポート:60%(期末にレポートを提出してもらいます)、授業への参加度・平常点:40%(各授業の際の確認チェックなど)

課題に対するフィードバック

前回のキーワード確認の説明を、授業の冒頭で行います

授業計画

1. 人間らしく生きる人権とは何か
2. 日本の人権の歴史…多様な文化と地域
3. 日本の前近代社会の身分差別・男女差別
4. 日本の前近代の差別を批判する思想・仏教
5. 西欧での基督教の変化と人権思想
6. 日本の近代と人権思想・学問のススメ
7. 日本の近代と社会問題・貧困・病気の克服
8. 日本の近代と男女差別・ジェンダーの問題
9. 20世紀日本の被差別部落と水平運動
10. 20世紀日本の社会福祉の展開
11. 日本国憲法と基本的人権の保障
12. 21世紀世界・子どもの人権
13. 福祉国家の思想の理想と現実
14. 多文化社会の中での人権思想
15. まとめ…多様性と差異をどう認めあうか

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 必要な資料はプリントで配布するので保存しておいてください。授業の前後に見直してください。

《参考文献》 その都度、参考文献を指摘します。一般的な参考文献として
澤野義一・小林直三『テキストブック憲法』法律文化社、
奥野恒久『人権論』法律文化社 関心のある人は読んでください

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b11005100	自己開発とキャリアデザイン	(川崎 明仁)			
単 位	1	期 別	春学期	学 年	1 年次～

到達目標

- ・「大学を卒業して社会に出て働く」ことの「意義」を理解できる。
- ・「就職とは、自らの職＝職業(働きたいのあるもの)を得ることであり、会社や団体といった場(場所)に属することではない」ことを理解できる。
- ・「自分について理解を深めながら、将来の進路を探すための方向性を見出す」ことができる。

キーワード

- ①「チェーン・レクチャー」 ②「体験型学習」 ③「学生生活や将来像」の「プランニング」

事前・事後学習

事前学習:「自分の就きたい仕事、取りたい資格、興味のある業種など」に「普段から」「関心を持ち」、「1日に30分以上は」「必要な情報」を「インターネットなどで検索する」など、「必要な知識の蓄積に努めること」。

事後学習:「各回の授業で得た知識や観点」を「自分の希望する進路に向けて」「どのように活用していくのか」を「(短文でもよいので)文字化しておくこと」。

授業内容

大学は、「学問研究を通じて人間としての成長を実現する場」であると同時に、「実社会に出て職業人として活躍するための知識や技術を養い、社会人としての自立心や覚悟を堅固にし、その資質・素養を培う場」でもある。

そこで、本講義では、学生諸君が「チェーン・レクチャー方式」で「将来の就労に向けた基本的な知識や方法論を学ぶ」ことによって、「自己の適性や卒業までの学生生活像、将来の進路を見定める」ことを目標とする。

なお、授業では「グループワークやディスカッションなど、体験的な学習を行う」ので、「受講者の主体的な参加」を求める。

成績評価方法

平常点(出席、授業への参加姿勢、毎回の振り返りレポート):100%

課題に対するフィードバック

「毎回の振り返りレポート」に対する「講評」をもって「フィードバック」とする。

授業計画

- | | |
|------------------------------|--------------------------|
| 1. オリエンテーション | 5. 自己分析、自己覚知(2)自己PR |
| 2. グループディスカッション:学生生活、将来像 | 6. キャリア・シミュレーション・プログラム |
| 3. プレゼンテーション:学生生活・卒業後のプランニング | 7. グループ・ディスカッション:働くことの意味 |
| 4. 自己分析、自己覚知(1)自分史 | 8. まとめ |

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 特になし。「各担当教員」が「適宜、資料を配付する」。

《参考文献》「テーマに即して」、「適宜、紹介する」。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b11006100	密教入門A 密教の基礎の基礎を学ぶ	(松本 峰哲)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	1年次～

到達目標

専門的な密教関係の学術書に出てくる専門用語を理解できる。

キーワード

密教の歴史、空海

事前・事後学習

講義は指定テキストの内容に沿って解説を行いますので、講義後は該当箇所のテキストの読み返しを中心に、講義で解説された用語の再確認の復習(4時間程度)をしっかりと行ってください。入門の講義ですので予習は不要です。復習に時間をかけてください。

授業内容

密教の思想を学び理解する為には、密教特有の専門用語をまず知らなければなりません。

本講義では密教の用語解説を中心に、ビデオ等の視聴覚資料も使いながら

密教の全体像について優しく概説します。

講義は指定テキストの内容に沿って解説を行いますので、講義後は該当箇所のテキストの読み返しを中心に、講義で解説された用語の再確認の復習(4時間程度)をしっかりと行ってください。

成績評価方法

定期試験:100%

課題に対するフィードバック

定期試験は実施後に正解をweb(Microsoft Teams)上に公開します。

授業計画

1. イントロダクション
2. 密教とは何か(1)
3. 密教とは何か(2)
4. インド密教の萌芽
5. インド密教の全盛
6. 後期インド密教
7. 中国の密教(1)
8. 中国の密教(2)
9. チベット密教(1)
10. チベット密教(2)
11. チベット密教(3)
12. 日本密教の萌芽
13. 日本密教の展開
14. 密教の興亡
15. まとめ

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 頼富本宏『密教とマンダラ』講談社学術文庫

《参考文献》 講義中に適宜紹介します。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b11006200	密教入門B 密教の基礎の基礎を学ぶ	(松本 峰哲)			
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	1年次～

到達目標

専門的な密教関係の学術書に出てくる専門用語を理解できる。

キーワード

仏、密教美術、マンダラ

事前・事後学習

講義は指定テキストの内容に沿って解説を行いますので、講義後は該当箇所のテキストの読み返しを中心に、講義で解説された用語の再確認の復習(4時間程度)をしっかりと行ってください。入門の講義ですので予習は不要です。復習に時間をかけてください。

授業内容

密教の思想を学び理解する為には、密教特有の専門用語をまず知らなければなりません。

本講義では密教の用語解説を中心に、ビデオ等の視聴覚資料も使いながら

密教の全体像について優しく概説します。

講義は指定テキストの内容に沿って解説を行いますので、講義後は該当箇所のテキストの読み返しを中心に、講義で解説された用語の再確認の復習(4時間程度)をしっかりと行ってください。

成績評価方法

定期試験:100%

課題に対するフィードバック

定期試験は実施後に正解をweb(Microsoft Teams)上に公開します。

授業計画

1. イントロダクション
2. 密教の教義(1)
3. 密教の教義(2)
4. 密教の教義(3)
5. 密教の修法(1)
6. 密教の修法(2)
7. 日本文化と密教(1)
8. 日本文化と密教(2)
9. 密教の仏(1)
10. 密教の仏(2)
11. マンダラとは何か(1)
12. マンダラとは何か(2)
13. マンダラとは何か(3)
14. 現代の密教
15. まとめ

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 頼富本宏『密教とマンダラ』講談社学術文庫

《参考文献》 講義中に適宜紹介します。

その他

コード	履修科目名				(担当教員)
b11007100 :	社会福祉入門A				(申 恩瑄)
単 位	2	期 別	春学期	学 年	1 年次～

到達目標

- ・社会福祉の全般的な内容について理解する
- ・社会福祉制度の発展過程について説明できる

キーワード

社会福祉制度、社会福祉政策

事前・事後学習

授業で使用した専門用語の意味を理解しておくこと

授業内容

社会福祉学についての基礎的なことを学ぶ。現代における社会福祉を理解するために、日本と諸外国の社会福祉歴史を踏まえ、福祉政策及び実践の発達過程学ぶ。なお、社会福祉の関連領域とそれらの相互関係について理解する。

授業外の学修・課題

授業内で指定された課題のほか、授業で学んだ内容を毎回自宅で振り返ること

成績評価方法

- ・平常点(出席、受講態度等)：50%
- ・課題の提出状況及び内容：30%
- ・レポート：20%

課題に対するフィードバック

提出課題についてコメントを記し、個別に返却する。必要に応じて評価について話し合いを行う

授業計画

1. オリエンテーション
2. 社会福祉の理念(1)
3. 社会福祉の理念(2)
4. 社会福祉の発達過程(1)
5. 社会福祉の発達過程(2)
6. 社会福祉の発達過程(3)
7. 諸外国の福祉(1)
8. 諸外国の福祉(2)
9. 社会福祉制度を必要とする人々(1)
10. 社会福祉制度を必要とする人々(2)
11. 社会福祉制度の担い手の制度と資格(1)
12. 社会福祉制度の担い手の制度と資格(2)
13. 社会福祉事業を行う組織(1)
14. 社会福祉事業を行う組織(2)
15. まとめ

テキストおよび参考文献等

- 《テキスト》 必要に応じてプリントを配布する
- 《参考文献》 適宜、紹介する

その他

障がい者福祉サービス施設の相談員として勤務。社会福祉士、精神保健福祉士

コード	履修科目名				(担当教員)
b11007200 :	社会福祉入門B				(申 恩瑄)
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	1年次～

到達目標

- ・社会福祉の基礎的な内容について理解する
- ・社会保障制度と社会福祉制度の体系及び内容について説明できる

キーワード

社会福祉制度、社会保障制度

事前・事後学習

授業で使用した専門用語の意味を理解しておくこと

授業内容

社会福祉学についての基礎的なことを幅広く学ぶ。社会の変化と社会福祉の変容を踏まえ、現代社会における社会福祉体系と諸制度の内容について理解する。なお、社会福祉関連領域との相互関係について理解を深める。

授業外の学修・課題

授業内で指定された課題のほか、授業で学んだ内容を毎回自宅で振り返ること

成績評価方法

- ・平常点(出席、受講態度等):50%
- ・課題提出状況および内容 :30%
- ・レポート :20%

課題に対するフィードバック

提出課題についてコメントを記し、個別に返却する。必要に応じて評価について話し合いを行う

授業計画

1. オリエンテーション
2. 社会福祉の原理と政策
3. 社会保障制度の概念
4. 社会保障制度の歴史
5. 年金保険制度
6. 医療保険制度
7. 労働保険制度
8. 貧困に対する支援
9. 障がい者福祉
10. 児童・家庭福祉
11. 高齢者福祉
12. 権利擁護を支える法制度
13. 刑事司法と福祉
14. 保健医療と福祉
15. まとめ

テキストおよび参考文献等

- 《テキスト》 必要に応じてプリントを配布する
- 《参考文献》 適宜、紹介する

その他

障がい者福祉サービス施設の相談員として勤務。社会福祉士、精神保健福祉士

コード	履修科目名	(担当教員)			
b11009100	世界の福祉～世界の福祉問題	(向井 啓二)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	1 年次～

到達目標

・世界の様々な社会問題や社会福祉に関する問題が理解できる。・グローバル化した世界の中で人々がどのように生きていることについて理解できる。・社会福祉が一国だけでなく、世界中で必要とされていることが理解できる。・先進国だけでなく開発途上国の現状についても理解できる。

キーワード

国連 人権 開発途上国

事前・事後学習

事前:世界のことを学ぶので世界地図でおおよその国がどの地域にあるのか下調べしておくこと。
事後:授業終了時に配布する小レポート用紙(200字程度)を利用し授業内容をまとめ次回授業で提出すること。

授業内容

グローバル化した21世紀。国という枠組みを越えて起こっている問題を知り、その解決のためにどのようなことがなされているかを理解してもらう。何故、日本が開発途上国をはじめとする国々と協力し、場合によっては支援をする必要があるのは、日本だけでなく世界の人々の幸せを進めるためのものであることが理解できるようになってもらいたい。

成績評価方法

平常点:40%(出席は特に重視する。)試験またはレポート:60%

課題に対するフィードバック

最終授業時に全体向けにフィードバックを行い、復習する。

授業計画

1. イントロダクションー世界はどう分けられているのか?ー
2. 世界の福祉を学ぶことは?
3. 世界の人々の人権
4. 開発途上国の貧困問題
5. 開発途上国の社会問題
6. グローバル化の中の子ども①ー児童労働・人身売買
7. グローバル化の中の子ども②ー子ども兵士・性搾取
8. 教育と福祉ー識字率ー
9. 難民への対応
10. グローバル化の中の障害者①ーICIDH・ICF
11. グローバル化の中の障害者②ー各種の条約など
12. グローバル化の中の女性
13. グローバル化の中の高齢者
14. 特徴的な取り組み
15. 国際福祉を行う機関

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 特になし。(必要に応じてプリントを配布する。)
《参考文献》 石井光太『絶対貧困』新潮文庫、同『ルボ餓死現場で生きる』ちくま新書

その他

担当教員はこれまで、ベトナムを中心に主にアジアの中進国・開発途上国の社会福祉や障害児教育の実情を調査し、論文その他を発表している。

コード	履修科目名	(担当教員)			
b11010100	仏教と文化	(今井 淨圓)			
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	1年次～

到達目標

仏教経典について関心を持ち、その内容を理解して、人に伝えることができる。

キーワード

ブッダ、スッタニパータ、ダンマパダ、ジャータカ、テラ・ガーター、テリ・ガーター、ミリンダ王の問い、シンガーラへの教え、大般涅槃経、大パリニッパナ経、遊行経、法華経

事前・事後学習

あらかじめ、授業で扱う経典・人名(翻訳三蔵など)・仏教要語などを辞書や辞典で調べ、予習したことをノートにまとめること。

授業内容

さまざまな地域で受容された仏教は、現在では、東南アジア諸国に伝わった上座部系仏教(南伝仏教)と、わが国も含めた東アジアで栄えた大乘仏教(北伝仏教)と、そして、8世紀後半ごろから伝わったチベット仏教の三種類に分類することができる。そこで、本講義では、インド仏教における経典成立史を紹介した上で、パーリ仏典と大乘仏教経典の中から、それぞれを代表する経典を選んで、できるだけ平易に、その内容についてを説明したい。また日本仏教との比較も考えてみてほしい。

成績評価方法

平常点:20%(毎回出席をとります。授業態度も評価の対象になります)
レポート点:20%(締め切り期日を厳守。その内容を評価します)
定期試験:60%(その内容を評価します)

課題に対するフィードバック

提出された小レポートやノートに対してコメントをつけて返します。あるいは小レポートを回収後、解説を行います。

授業計画

1. 歴史上のブッダの生涯と思想
2. 仏教教団の成立について
3. 仏典に使われた言語と訳経史
4. パーリ仏典について
5. スッタニパータ(経集)について
6. ダンマパダ(『法句経』)について
7. ジャータカ(本生譚)について
8. テラ・ガーター(『仏弟子の告白』)について
9. テリ・ガーター(『尼僧の告白』)について
10. ミリンダ王の問い(『弥蘭陀王問経』)について
11. シンガーラへの教え(『善生経』・『六方礼経』)について
12. 小乗仏教と大乘仏教の相違点について
13. 大乘の『大般涅槃経』と小乗の『大パリニッパナ経』・『遊行経』について
14. 『法華経』について
15. まとめ

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 講義時に、プリント資料を配布します。

《参考文献》 釋 哲宗 『お経で読む仏教』 NHK出版

中村 元 『仏教経典散策』 角川ソフィア文庫

その他、個別の経典についての参考資料は、必要に応じて講義の中で紹介します。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b11011100	仏教と生命倫理	(佐伯 俊源)			
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	1年次～

到達目標

「いのち」の本質への理解が深まる
 仏教の生命観・死生観への理解が深まる

キーワード

生命倫理 仏教の生命観・カララ 脳死臓器移植 出生前診断・人工妊娠中絶

事前・事後学習

事前学習:特に必須ではないが、授業テーマを参照し、各自調べたことをノートにまとめること
 事後学習:毎回の授業後に、重要な点や印象深い点などを文章コメントとして記述し、提出すること

授業内容

近現代の科学・技術・医療等の進歩に伴って、人類の「いのち(生命)」に対する見方・価値観も大いなる変容を余儀なくされてきた。従来、人びとの生死と密接に関わり、独自の生命観・死生観を提示してきた仏教をはじめとする諸宗教は、そのような生命倫理をめぐる大きな変容の渦中において、いかなる議論を構築し、また今後への展望を提示することができるのであろうか。本講義では、そのような問題関心を念頭に置いて、仏教と生命倫理をめぐる諸問題について理解を深めたい。
 授業では、おおむね以下の計画に挙げるように、生命倫理や仏教の生命観について総論的な解説を加えた上で、現代社会における生命倫理上の諸事象(脳死臓器移植、安楽死・尊厳死、出生前診断・人工妊娠中絶、等々の諸問題)の中から、各論的に適宜テーマを取り上げて、その現状を紹介しながら、それぞれの問題点や今後の課題について考えてゆく。

成績評価方法

平常点(出席、受講態度など):50%
 講義内容に関する定期試験もしくはレポート:50%

課題に対するフィードバック

定期試験後に文面・口頭でフィードバックを行う

授業計画

- | | |
|---------------------------|------------------------------|
| 1. 序論 | 9. 総論―仏教における生命観② |
| 2. 総論―生命倫理学(バイオエシックス)の動向① | 10. 各論―現代の生命倫理をめぐる具体的事象について① |
| 3. 総論―生命倫理学(バイオエシックス)の動向② | 11. 各論―現代の生命倫理をめぐる具体的事象について② |
| 4. 総論―世界の思想史上の生命観① | 12. 各論―現代の生命倫理をめぐる具体的事象について③ |
| 5. 総論―世界の思想史上の生命観② | 13. 各論―現代の生命倫理をめぐる具体的事象について④ |
| 6. 総論―宗教における生命観① | 14. 各論―その他の諸問題 |
| 7. 総論―宗教における生命観② | 15. 総括 |
| 8. 総論―仏教における生命観① | |

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 授業中に資料プリントを適宜配布する。
 《参考文献》 講義内容に即して授業中に適宜紹介する。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b11012100	仏教と現代社会	(佐伯 俊源)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	1年次～

到達目標

仏教の現状(歴史推移も含む)について理解が深まる
 仏教の課題(未来への展望も含む)について理解が深まる

キーワード

政教分離 信教の自由 神仏習合 神仏分離
 葬祭仏教 祈祷仏教 観光仏教 福祉対応仏教 エンゲイジド・ブディズム

事前・事後学習

事前学習:特に必須ではないが、授業テーマを参照し、各自調べたことをノートにまとめること
 事後学習:毎回の授業後に、重要な点や印象深い点などを文章コメントとして記述し、提出すること

授業内容

人類の歴史を振り返れば、宗教はかつて人間社会全般をおおう制度そのものであったり、そうでなくとも種々レベルの共同体を規制し、人間生活に大きな影響力を及ぼす存在であった。そして、日本において、そうした宗教の中心に位置してきたのは、何といても仏教であった。
 しかし、近現代社会になると、政治・経済・科学・倫理、そして宗教などの様々な社会機能が分化していった結果、宗教の果たす役割は前近代に比べて格段に縮小し、その存在自体も見えにくくなったといわれている。このような現代において、仏教が果たすべき役割は一体何なのか。そして、仏教が再生してゆく方途はあるのか。このような大きな問題関心を念頭に置きながら、現代仏教をめぐる諸問題への理解を深めたい。
 授業では、おおむね以下の計画に挙げるような、現代において仏教と社会が深い接点を有すると思われる諸事象の中から、適宜テーマを取り上げて、その現状を紹介しながら、現代の仏教が直面する問題や今後の課題について考えてゆく。

成績評価方法

平常点(出席、受講態度など):50%
 講義内容に関する定期試験もしくはレポート:50%

課題に対するフィードバック

定期試験後に文面・口頭でフィードバックを行う

授業計画

- | | |
|---------------------------------|--------------------------|
| 1. 序論 | 9. 祈祷仏教と祈祷寺院② 問題点／今後の展望 |
| 2. 政治と仏教(宗教)の関係～宗教法人法と仏教(宗教)教団① | 10. 観光仏教と観光寺院① 歴史的背景／現状 |
| 3. 政治と仏教(宗教)の関係～宗教法人法と仏教(宗教)教団② | 11. 観光仏教と観光寺院② 問題点／今後の展望 |
| 4. 葬式仏教と檀家寺院① 歴史的背景 | 12. 現代仏教と福祉対応寺院① |
| 5. 葬式仏教と檀家寺院② 現状 | 13. 現代仏教と福祉対応寺院② |
| 6. 葬式仏教と檀家寺院③ 問題点 | 14. エンゲイジド・ブディズムの展開 |
| 7. 葬式仏教と檀家寺院④ 今後の展望 | 15. 総括 |
| 8. 祈祷仏教と祈祷寺院① 歴史的背景／現状 | |

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 授業中に資料プリントを適宜配布する。
 《参考文献》 講義内容に即して授業中に適宜紹介する。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b11013100	仏教と習俗	(今井 淨圓)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	1年次～

到達目標

カレンダーの中に宗教的な祝祭日があることを知り、その意味を正しく伝えることができる。京都における年中行事や仏教文化について関心が持てるようになり、教養として身につく。

キーワード

五節句・人日(じんじつ)(正月七日)・上巳(じょうし)(三月三日)・端午(たんご)(五月五日)・七夕(しちせき)(七月七日)・重陽(ちょうよう)(九月九日)・祇園祭・五山の送り火・お盆・お彼岸 等。

事前・事後学習

年中行事・習俗・宗教行事・仏教要語などについて辞書や辞典で調べ、予習したことをノートにまとめること。また授業中に紹介した参考文献について図書館で調べること。

授業内容

古代インドに誕生した仏教は、ユーラシア大陸から東南アジアの諸国まで、世界各地に流伝しました。仏教は、今なお広く信仰を集め、人々の心の拠り所になっています。その過程で、受容した地域固有の風土と融合して、変容しました。日本における神仏習合も、その一つです。仏教は次第に浸透していき、現在では、さまざまな宗派仏教が成立し、わが国の文化の一翼を担っています。例えば、京都の町中を歩いていると、あちこちで、有形・無形の仏教文化にふれることができます。その一方で、日本人にとって身近だった仏教も、21世紀の現在、さまざまな変化に見舞われています。本講義は、仏教における民俗学的なアプローチです。とくに京都の年中行事や祭礼で、仏教とかかわりが深いものを選んで、その歴史的展開と伝統な文化について紹介します。

成績評価方法

平常点:20%(毎回出席をとります。授業態度も評価の対象にします)
レポート点:20%(締め切り期日を厳守。その内容を評価します)
定期試験:60%(その内容を評価します)

課題に対するフィードバック

提出された小レポートやノートに対してコメントをつけて返します。あるいは小レポートを回収後、解説を行います。

授業計画

- | | |
|------------------------|---------------------------|
| 1. イントロダクション ー 仏教とは何かー | 9.七夕について |
| 2. 年中行事とは何か | 10. 重陽について |
| 3. 仏教の開祖・釈尊について ① | 11. 京都の三大祭り ー とくに祇園祭についてー |
| 4. 仏教の開祖・釈尊について ② | 12. お盆と五山の送り火について |
| 5. 花まつり(降誕会・仏生会)について | 13. お彼岸について |
| 6. 日本における五節句とは | 14. お正月とひな祭りについて |
| 7. 端午の節句について | 15. まとめ |
| 8. 弘法大師の青葉まつり(誕生会)について | |

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 講義時にプリント資料を配布します。
《参考文献》 その他、必要に応じて、講義の中で紹介します。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b11014100	福祉文化論	(柴田 綾子)			
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	1年次～

到達目標

様々な社会問題を題材とした文化作品を通して、社会福祉のあるべき姿について考察を深める。

キーワード

- ・映画、ドラマなどの映像や漫画、小説などの資料を用いて、時代によって変わりゆく社会問題を考える。
- ・作者のメッセージに迫り、その作品が生まれた時代背景、社会の価値観等も読み解く。
- ・積極的なディスカッションを通して、自らの価値観について気づきを得ることをねらいとする。

事前・事後学習

「事前学習」社会福祉が取り扱うべき問題に関するニュースや新聞記事に日頃から関心を高めておく。
「事後学習」授業で得た学びや気づきをミニレポートにまとめて、毎回授業後に提出する(5～10分程度)

授業内容

少子高齢化時代の到来、不景気による失業者の増加、など福祉への関心は、もはや専門領域のものだけでなく、社会全体のものとなっている。また社会情勢の変化と共に福祉が対象とする問題も幅広くなっており、それに伴い、福祉を取り扱う文化作品も年々バリエーションに富んだものとなっている。本授業では、毎回そうした文化作品を取り上げて、登場人物の心的風景に迫るだけでなく、その作品が生まれた社会情勢、価値観等との影響についても考察を深める。

成績評価方法

- 1) 平常点(授業における参加態度～積極性～):45%
- 2) 提出物の提出状況および内容(ミニレポート):15%
- 3) 期末レポート:40%

課題に対するフィードバック

最終授業時に、各自レポート内容をレジュメにして発表し、講師が統括を行う。

授業計画

- | | |
|------------------|-------------------------------|
| 1. オリエンテーション | 9. 児童や家庭を取り巻く問題① |
| 2. 地域における福祉課題① | 10. 児童や家庭を取り巻く問題② |
| 3. 地域における福祉課題② | 11. 高齢者を取り巻く問題 |
| 4. 精神障害者を取り巻く問題① | 12. 貧困世帯を取り巻く福祉課題 |
| 5. 精神障害者を取り巻く問題② | 13. 医療分野における福祉課題 |
| 6. 身体障害者を取り巻く問題① | 14. 福祉サービス従事者およびボランティアを取り巻く問題 |
| 7. 身体障害者を取り巻く問題② | 15. レポート発表および総括 |
| 8. 知的障害者を取り巻く問題 | |

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 毎回、資料・レジュメを配布する。
《参考文献》 授業内に適宜紹介する。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b11015100	ボランティア論～ボランティアをするために	(脇田 寛史)			
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	1 年次～

到達目標

◎ボランティア活動に必要なスキル(援助方法やレクなど)を身につけ、その社会的意義が理解できる。
 ・ボランティア活動を希望されている方:最低限知っておくべき知識(原理・原則)が理解できる。
 ・ボランティア活動をされている方:現在の活動を客観的に理解し直すことができる。

キーワード

ボランティア活動の原則(自発性、無給性、公益性、創造性) 自己成長性 社会への貢献

事前・事後学習

事前学習として、社会福祉協議会に出向き、ボランティア活動に関する情報を収集する。事後学習として、授業中に学んだボランティア活動の意義を施設や地域でのボランティア活動実践(単発のボランティア活動、定期的なボランティア活動)につなげていく。

授業内容

(ボランティアに関するご自身の考え、時には体験を語ることを中心に)社会における様々な課題に取り組むボランティア活動は、社会に貢献する活動であると同時に自己の能力を開発する機会ともなる。本講義ではそんなボランティア活動を行う際に必要となる基本的知識や理念を学び(基礎編)、地域分野、高齢者分野、障害者分野、児童分野等の現場で求められる活動内容について事例を通して学び(実践編)、「自分にはどのようなボランティア活動ができるのか、適しているのか」を考える(展開編)

成績評価方法

平常点:40%(内訳:リアクションペーパー作成15%、レクリエーション実施15%、課題レポート10%) 定期テストまたはレポート:60%

課題に対するフィードバック

最終授業時に全体向けにフィードバック(授業全体の振り返り)を行う

授業計画

- | | |
|-------------------------------------|-----------------------|
| 1. ボランティア活動とは(オリエンテーション) | 9. 地域分野でのボランティア実践 |
| 2. ボランティア活動の概念、目的、範囲 | 10. 高齢者分野のボランティア実践 |
| 3. ボランティア活動の沿革(日本におけるボランティア活動の歴史) | 11. 障害者分野のボランティア実践 |
| 4. ボランティア活動の内容(ボランティアの体系、行政・スキル・課題) | 12. 児童分野のボランティア実践 |
| 5. 社会福祉協議会によるボランティア活動 | 13. 災害時のボランティアの実践 |
| 6. 企業が行うボランティア活動 | 14. ボランティアコーディネーターの役割 |
| 7. NPOによるボランティア活動 | 15. まとめ・振り返り |
| 8. ボランティア活動の実践 | |

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 各単元に関する講義プリントや資料を配布する。

《参考文献》 岡本榮一・菅井直也・妻鹿ふみ子編「学生のためのボランティア論」社会福祉法人大阪ボランティア協会2004年

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b11016100 :	介護入門	(川本 昌子)			
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	1 年次～

到達目標

介護の基礎的理念・技術を通して「人の世話をすることの意味を、安全・安楽の理念に基づき理解できる
自分の身体を道具として、頭と手と心を統合し、効率的に美しく使うことができる

キーワード

安全・安楽、頭と手と心

事前・事後学習

テキスト用教材及び配布資料の活用。

授業内容

人の世話をすることの意味を理論的に考え、身辺介護にかかわる基礎的・初歩的技術を経験する。援助する側と援助される側の演習から、介護実践で重要な意味を持つ、知識の蓄積(頭)、技術の熟練(手)、倫理観の確立(心、人としての在り方)などについての認識を深め、問題解決能力の向上を目指す。

成績評価方法

1.平常点:60%(出席率・受講態度及び協調性)2.実技試験、筆記試験:20%、3.レポート:20% A4(30字×40行、2~3枚)レポートテーマ(例)「介護実践の基本として重要な考え態度について」

課題に対するフィードバック

ケア目的の確認、技術の繰り返し、心配りの感性についてコメントします。

授業計画

- | | |
|--|--|
| 1. 講義の進め方のオリエンテーション。福祉・仏教・介護とは。対象論とは。コミュニケーションとは。学ぶこと、頭を使うこととは。システムとしてのからだ。「説明・ことばかけ」の意義・重要性。問題解決過程、観察・記録・情報の意味、連携・チームワークの重要性。(ディスカッションを含めた授業として進める) | 9. 同上 |
| 2. 同上 | 10. 手洗い、感染予防の意義・方法と実施
食事介助の意義・方法と実施 |
| 3. 同上 | 11. 同上 |
| 4. ベッドメイキングの意義・方法と実施 | 12. 保清の意義・方法(清拭・足浴)と実施 |
| 5. ベッドメイキングの実施 | 13. 寝衣交換・シーツ交換の意義・方法と実施 |
| 6. 車いす操作・方法と実施(学内および学外) | 14. バイタルサインズ・一般状態の観察、意義・方法と実施 |
| 7. ボディメカニクス・体位変換(トランスファー)および車いす移乗の意義・方法と実施。 | 15. 総括(質問紙テスト 答え合わせと解説) |
| 8. 同上 | |

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 川本編集テキスト用教材・各技術資料教材、VTR・DVD
《参考文献》

その他

コード	履修科目名				(担当教員)
b12001100 :	総合英語A 「日米文化の比較」を通して「総合的に学ぶ」英語の「文法・リスニング・読解」				(川崎 明仁)
単 位	2	期 別	春学期	学 年	1年次～

到達目標

「日米文化」の「異同」を「英語で」「理解」「表現」できる

キーワード

①比較文化(日米) ②「英文法」の「総復習」 ③「リスニング・読解」の「技能練成」

事前・事後学習

※「テキスト」の「設問のページ」は「事後学習時に再解答できるよう」、「必ず」「書き込み前に(記入欄が空白の状態で)」「各自でコピーを取っておく」こと。

事前学習:「テキスト」の「[リスニングを含む]全ての設問に目を通し」、「[電子]辞書を使ってもよい」ので、「可能な限り」「自分なりの解答」を「用意しておく」こと。

事後学習:「[上の※の指示に従って]各自であらかじめ用意した」「設問の空白コピー」を「全て」「辞書を使わずに解答し」、「間違えた設問があれば」「原因を分析し」、「以後の学習に役立てる」。

授業内容

本講では、学生諸君が主に「文法」・「リスニング」・「読解」の「3つの観点」から「英語の全体像を総合的に捉え直す」とともに「日米文化の理解を深める」ことを目標とする。

成績評価方法

成績判定は、定期試験(70%)、平常点[出席状況、受講態度、遅刻、忘れ物などを含む](30%)の割合で、総合的に行う。A(春学期)・B(秋学期)とも、「欠席(※不可抗力など、本人に責任が無い旨の証明書を提出できる場合は除く。)の回数」が「学生便覧に定められた限度を超えた」者は、「定期試験の受験資格を失い、即、単位不認定(0点)」となる。

課題に対するフィードバック

「定期試験のフィードバック」として、「受験者各自」への「講評」を「電子メールで」「通知する」。

授業計画

- | | |
|-------------------------|--------------------------------|
| 1. 文法①「名詞・代名詞」／長文読解①「桜」 | 9. 長文読解⑥「教育」／問題演習⑥ |
| 2. 問題演習①／文法②「冠詞」 | 10. 文法⑦「過去時制」／長文読解⑦「外来語」／問題演習⑦ |
| 3. 長文読解②「首都東京」／問題演習② | 11. 文法⑧「現在完了」／長文読解⑧「労働」／問題演習⑧ |
| 4. 文法③「to不定詞」／長文読解③「映画」 | 12. 文法⑨「受動態」／長文読解⑨「記念日」／問題演習⑨ |
| 5. 問題演習③／文法④「動名詞」 | 13. 文法⑩「数詞」／長文読解⑩「結婚式」／問題演習⑩ |
| 6. 長文読解④「交通機関」／問題演習④ | 14. 文法⑪「形容詞」／長文読解⑪「結婚」／問題演習⑪ |
| 7. 文法⑤「動詞」／長文読解⑤「広告」 | 15. 文法⑫「副詞」／長文読解⑫「プレゼント」／問題演習⑫ |
| 8. 問題演習⑤／文法⑥「現在時制」 | |

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 チャールズ.L.クラーク他著『文法中心の日米比較』(CD付き)南雲堂
《参考文献》 授業時に適宜、指示する。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b12001200 :	総合英語B 「日米文化の比較」を通して「総合的に学ぶ」英語の「文法・リスニング・読解」	(川崎 明仁)			
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	1年次～

到達目標

「総合英語A」に「同じ」。

キーワード

「総合英語A」に「同じ」。

事前・事後学習

「総合英語A」に「同じ」。

授業内容

「総合英語A」に「同じ」。

成績評価方法

「総合英語A」に「同じ」。

課題に対するフィードバック

「総合英語A」に「同じ」。

授業計画

- | | |
|-------------------------|--|
| 1. 文法⑬「進行形」／長文読解⑬「一人っ子」 | 9. 長文読解⑯「飲み物」／問題演習⑯ |
| 2. 問題演習⑬／文法⑭「未来時制」 | 10. 文法⑰「比較」／長文読解⑰「クリスマス」／問題演習⑰ |
| 3. 長文読解⑭「離婚」／問題演習⑭ | 11. 文法⑳「関係詞」／長文読解⑳「年末の集まり」／問題演習⑳ |
| 4. 文法⑮「助動詞」／長文読解⑮「ユーモア」 | 12. 文法[21]「否定」／長文読解[21]「入浴」／問題演習[21] |
| 5. 問題演習⑮／文法⑯「前置詞」 | 13. 文法[22]「分詞構文」／長文読解[22]「スポーツ」／問題演習[22] |
| 6. 長文読解⑯「漫画」／問題演習⑯ | 14. 文法[23]「疑問文」／長文読解[23]「塾」／問題演習[23] |
| 7. 文法⑰「接続詞」／長文読解⑰「宗教」 | 15. 文法[24]／長文読解[24]「シーフード」／問題演習[24] |
| 8. 問題演習⑰／文法⑱「仮定法」 | |

テキストおよび参考文献等

《テキスト》「総合英語A」に「同じ」。

《参考文献》「総合英語A」に「同じ」。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)		
b12002100:	英会話A「ディクテーション・発音記号・英作文」を「活用」した英会話の「実践的演習」	(川崎 明仁)		
単 位	2	期 別	春学期	学 年
				1年次～

到達目標

「様々な状況に即応した」「コミュニケーション」を「英語で」できる

キーワード

①「発音記号」による「正確な発音の習得」 ②「英作文」の「英会話への応用」 ③「様々な場面に即応した」「実践的英会話」

事前・事後学習

※「テキスト」の「設問のページ」は「事後学習時に再解答できるよう」、「必ず」「書き込み前に(記入欄が空白の状態で)」「各自でコピーを取っておく」こと。事前学習:「CDがなくても解答できる」「全ての設問に目を通し」、「[電子]辞書を使ってもよい」ので、「可能な限り」「自分なりの解答」を「用意しておく」こと。

事後学習:「[上の※の指示に従って]各自であらかじめ用意した」「設問の空白コピー」を「全て」「辞書を使わずに解答し」、「間違えた設問があれば」「原因を分析し」、「以後の学習に役立てる」。

授業内容

本講では、「学生諸君」が「英語によるコミュニケーション技能」を「増進できるよう」、「様々な状況」を「想定」して作成されたテキストを使って「ディクテーション(聴き取った英語の正確な書き取り)」、「発音記号に基づいた正確な発音練習」、「英作文(日本語から英語への正確な置き換え)」を中心とした「実践的な英会話演習」を行う。「会話」というと、とかく「聞き覚えや口まねだけで事足りるかのように考えられがち」であるが、「相手の発言を正しく理解し、自分の意思を的確に伝える」ためには、「語彙」、「文法」、「作文」といった「一見、会話とあまり関係がないかのように思われがちな知識」の「確立」と「それらを駆使する技能」の「練成」がきわめて重要であることを忘れてはならない。

成績評価方法

成績判定は、定期試験(70%)、平常点[出席状況、受講態度、遅刻、忘れ物などを含む](30%)の割合で総合的に行う。A(春学期)・B(秋学期)とも、「欠席(※不可抗力など、本人に責任が無い旨の証明書を提出できる場合は除く。)」の「回数」が「学生便覧に定められた限度を超えた」者は、「定期試験の受験資格を失い、即、単位不認定(0点)」となる。

課題に対するフィードバック

「定期試験のフィードバック」として、「受験者各自」への「講評」を「電子メールで」「通知する」。

授業計画

- | | |
|--|--------------|
| 1. 「母音」の「正しい発音」:「担当教員自作」の「発音記号のプリント」を使用する。 | 9. 確認の表現 |
| 2. 「子音」の「正しい発音」:「方法」は「第1講に同じ」。 | 10. タクシーに乗る |
| 3. 宿泊の予約 | 11. 機内で |
| 4. 写真を撮る | 12. 空港での出迎え① |
| 5. レストランで | 13. 空港での出迎え② |
| 6. 健康や体調 | 14. 感想を尋ねる① |
| 7. テレビ | 15. 感想を尋ねる② |
| 8. スポーツ | |

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 金子光茂他著『コミュニケーションの英語チェックブック』南雲堂
《参考文献》 授業時に適宜、指示する。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b12002200 :	英会話B 「ディクテーション・発音記号・英作文」を「活用」した英会話の「実践的演習」	(川崎 明仁)			
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	1年次～

到達目標

「英会話A」に「同じ」。

キーワード

「英会話A」に「同じ」。

事前・事後学習

「英会話A」に「同じ」。

授業内容

「英会話A」に「同じ」。

成績評価方法

「英会話A」に「同じ」。

課題に対するフィードバック

「英会話A」に「同じ」。

授業計画

- | | |
|------------|------------|
| 1. 忠告する① | 9. プレゼント① |
| 2. 忠告する② | 10. プレゼント② |
| 3. 許可を求める① | 11. ボランティア |
| 4. 許可を求める② | 12. コンピュータ |
| 5. 招待する① | 13. 会議で |
| 6. 招待する② | 14. 職場で |
| 7. ホームステイ① | 15. 去り際の挨拶 |
| 8. ホームステイ② | |

テキストおよび参考文献等

《テキスト》「英会話A」に「同じ」。
《参考文献》「英会話A」に「同じ」。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b12004100:	福祉英語A「福祉の現場」で「すぐに使える」英語	(川崎 明仁)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	1年次～

到達目標

「福祉の現場に必要な」「コミュニケーション」を「英語で」できる

キーワード

①「現場ですぐに使える」「福祉英語」 ②「様々な福祉場面」を「想定」 ③「多岐にわたる」「問題演習」

事前・事後学習

※「テキスト」の「設問のページ」は、「事後学習」時に「再解答できる」よう、「必ず」「書き込み前に(記入欄が空白の状態で)」「各自でコピーを取っておく」こと。
事前学習:「テキスト」の「[リスニングを含む]全ての設問に目を通し」、「[電子]辞書を使ってもよい」ので、「可能な限り」「自分なりの解答」を「用意しておく」こと。
事後学習:「[上の※の指示に従って]各自であらかじめ用意した」「設問の空白コピー」を「全て」「辞書を使わずに解答し」、「間違えた設問があれば」「原因を分析し」、「以後の学習に役立てる」。

授業内容

昨今の日本は、民族・性別・年齢・障害の有無など様々な違いを乗り越えて、人々が等しく心豊かに共生する福祉社会へと成長しつつある。そのため、福祉の現場においても、外国人との交流は、否が応でも、増加の一途を辿っている。

そこで、本講では、「福祉の現場」で想定されうる「様々な状況」を題材にとり、「対話のディクテーション(聴き取った英語の正確な書き取り)」・「重要語彙(主に専門用語)の英訳の確認」・「和文英訳」・「長文読解」・「文法問題」・「英問英答(「英語の問い」に「英語で答える」)」など「多岐にわたる問題演習」を通して、学生諸君が「福祉の現場」で「すぐに使える」「実践的な英語」を「習得する」ことを目標とする。

本講は、「社会福祉学科の学生」を「主な対象」としているが、「福祉に関心のある」「仏教学科の学生の受講」も「歓迎」する。

成績評価方法

成績判定は、定期試験(70%)、平常点[出席状況、受講態度、遅刻、忘れ物などを含む](30%)の割合で総合的に行う。A(春学期)・B(秋学期)とも、「欠席(※不可抗力など、本人に責任が無い旨の証明書を提出できる場合は除く。)」の「回数」が「学生便覧に定められた限度を超えた」者は、「定期試験の受験資格を失い、即、単位不認定(0点)」となる。

課題に対するフィードバック

「定期試験のフィードバック」として、「受験者各自」への「講評」を「電子メールで」「通知する」。

授業計画

- | | |
|-----------------|---------------------|
| 1. 日本人の福祉理解度① | 9. ITが福祉で果たす役割① |
| 2. 日本人の福祉理解度② | 10. ITが福祉で果たす役割② |
| 3. 障害者が働くことの意義① | 11. 寝たきり防止策① |
| 4. 障害者が働くことの意義② | 12. 寝たきり防止策② |
| 5. 高齢者の孤独を癒すもの① | 13. 介護職と外国人① |
| 6. 高齢者の孤独を癒すもの② | 14. 介護職と外国人② |
| 7. 疾病外国人の苦労① | 15. ペット・ロボットと独居高齢者① |
| 8. 疾病外国人の苦労② | |

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 ウィリアム・M・バルサモ他著『福祉の英語』(CD付き)金星堂
《参考文献》授業時に適宜、指示する。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b12004200 :	福祉英語B 「福祉の現場」で「すぐに使える」英語	(川崎 明仁)			
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	1 年次～

到達目標

「福祉英語A」に「同じ」。

キーワード

「福祉英語A」に「同じ」。

事前・事後学習

「福祉英語A」に「同じ」。

授業内容

「福祉英語A」に「同じ」。

成績評価方法

「福祉英語A」に「同じ」。

課題に対するフィードバック

「福祉英語A」に「同じ」。

授業計画

- | | |
|--------------------|--------------------------|
| 1. ペット・ロボットと独居高齢者② | 9. ベビーシッターの信頼性② |
| 2. 福祉におけるNPOの活躍① | 10. 世界一の長寿国:日本① |
| 3. 福祉におけるNPOの活躍② | 11. 世界一の長寿国:日本② |
| 4. ホームヘルパーの労働条件① | 12. 高齢化社会への対応① |
| 5. ホームヘルパーの労働条件② | 13. 高齢化社会への対応② |
| 6. 盲導犬と介助犬① | 14. マネキン(ダミー)人形と医療・介護教育① |
| 7. 盲導犬と介助犬② | 15. マネキン(ダミー)人形と医療・介護教育② |
| 8. ベビーシッターの信頼性① | |

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 「福祉英語A」に「同じ」。
《参考文献》 「福祉英語A」に「同じ」。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b12006100 :	サンスクリット語Ⅰ～サンスクリット語文法(初級)	(松本 純子)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	1年次～

到達目標

デーヴァナーガリー文字を読むことができる。
サンスクリット語の基本的な文法を理解できる。
サンスクリット語で書かれた簡単な文章を翻訳することができる。

キーワード

サンスクリット語 梵語 インド

事前・事後学習

事前学習 授業中に出された課題を次回の授業までに必ずやってくる(60分程度)
事後学習 テキストおよび配布プリントを読み返し、講義内容を復習しておく(30分程度)

授業内容

サンスクリット語(梵語)文法を基礎から学ぶ授業です。サンスクリット語はインドの古典語で仏教やインドの宗教文化を理解するためには欠かせない言語です。サンスクリット語の歴史はとても古く、紀元前1200年頃にも遡ります。この授業で扱う古典サンスクリット文法は紀元前2世紀から変わることなく現代まで受け継がれているものです。サンスクリット語には複雑な文法規則がたくさんありますが、その中の最も基本的な文法事項を学び、例文を用いた翻訳練習によってサンスクリット文の翻訳に必要な知識と技術を身につけていきます。また、サンスクリット語の表記に用いられるデーヴァナーガリー文字の読み方も学習します。授業は講義形式で進めます。学習内容に応じて課題を出しますので、実際に自分で課題を解いて理解を深めてください。

成績評価方法

平常点30% 課題20% 定期試験50%

課題に対するフィードバック

提出課題にはコメントをつけて返却し、授業の中で解答および解説を行う。

授業計画

- | | |
|------------------|---------------------|
| 1. 文字の読み方(1)字母 | 9. 名詞概説 |
| 2. 文字の読み方(2)母音符号 | 10. a-語幹名詞 / ā-語幹名詞 |
| 3. 文字の読み方(3)連結文字 | 11. 文の構造 |
| 4. 文字の読み方(4)単語と文 | 12. i-語幹名詞 / ū-語幹名詞 |
| 5. 動詞概説 | 13. 関係詞の用法 |
| 6. 第1種活用動詞 現在 | 14. i-語幹名詞 / u-語幹名詞 |
| 7. 第1種活用動詞 未来 | 15. 文法事項のまとめ |
| 8. 第1種活用動詞 過去 | |

テキストおよび参考文献等

- 《テキスト》 吹田隆道[編著]『実習サンスクリット文法』(春秋社)
※要購入。毎回必ず持つてくること。
- 《参考文献》 Stories From The Mahābhārata A Sanskrit Coursebook for Intermediate Level, PartI, Edited by Warwick Jessup & Elena Jessup, Delhi, 2016.
※詳細は授業中に指示する。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b12006200 :	サンスクリット語Ⅱ～サンスクリット語文法(初級)	(松本 純子)			
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	1年次～

到達目標

デーヴァナーガリー文字を読むことができる。
サンスクリット語の基本的な文法事項を理解することができる。
サンスクリット語で書かれた簡単な文章を翻訳することができる。

キーワード

サンスクリット語 梵語 インド

事前・事後学習

事前学習 授業中に出された課題を次の授業までに必ずやってくる(60分程度)
事後学習 テキストおよび配布プリントを読み返し、講義内容を復習しておく(30分程度)

授業内容

本講義はサンスクリット語Ⅰの修了者を対象としています。サンスクリット語Ⅰで学習した文法事項を理解したうえで、引き続きサンスクリット語文法の基礎を学び、例文を用いた翻訳練習によってサンスクリット文の翻訳に必要な知識と技術を身につけていきます。また、サンスクリット語の表記に用いられるデーヴァナーガリー文字の読み方も学習します。授業は講義形式で進めます。学習内容に応じて課題を出しますので、実際に自分で課題を解いて理解を深めてください。

成績評価方法

平常点30% 課題20% 定期試験50%

課題に対するフィードバック

提出課題にはコメントをつけて返却し、授業の中で解答および解説を行う。

授業計画

- | | |
|---------------------|---------------------------|
| 1. サンスクリット語Ⅰ学習事項の復習 | 9. 第2種活用動詞 |
| 2. 過去受動分詞 | 10. 子音語幹名詞 |
| 3. 指示代名詞 | 11. 命令法の用法 |
| 4. 代名詞的形容詞 | 12. 過去時制の受動活用 / 未来時制の受動活用 |
| 5. 疑問詞 / 不定代名詞 | 13. 連声の規則 |
| 6. 人称代名詞 | 14. 名詞合成語 |
| 7. 動作者名詞 / 親族名詞 | 15. 文法事項のまとめ |
| 8. 現在時制の受動活用 | |

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 吹田隆道[編著]『実習サンスクリット文法』(春秋社)
※要購入。毎回必ず持ってくること。

《参考文献》 Stories From The Mahābhārata A Sanskrit Coursebook for Intermediate Level, Part I-Part II, Edited by Warwick Jessup & Elena Jessup, Delhi, 2016.
※その他、詳細は授業中に指示する。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b12006300 :	サンスクリット語Ⅲ～サンスクリット語文法(中級)	(松本 純子)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	2年次～

到達目標

サンスクリット語の文法を理解することができる。
サンスクリット語で書かれた文章を翻訳することができる。

キーワード

サンスクリット語 梵語 インド

事前・事後学習

事前学習 授業中に指示された翻訳問題を次回の授業までにやってくる(90分程度)
事後学習 授業で学習した文法事項をテキストで確認し復習しておく(30分程度)

授業内容

本講義はサンスクリット語Ⅰ・Ⅱの修了者を対象としています。より専門的にサンスクリット文法を学び、サンスクリット文の翻訳に必要な知識と技術を身につけます。授業では最初にサンスクリット語Ⅰ・Ⅱで学習した文法事項の復習を兼ねて『般若心経』のサンスクリット原典を翻訳します。その後、テキスト巻末の「選文」に収められている文章の読解を進めながら、サンスクリット語Ⅰ・Ⅱで学習した文法事項の復習および未学習の文法について学びます。あらかじめ自分で問題を解いてきていることを前提に授業を進めますので、毎回しっかりと予習することが必要です。

成績評価方法

平常点50% 定期試験50%

課題に対するフィードバック

授業中に読解問題の解答・解説を行う。

授業計画

- | | |
|-----------------------------------|------------------------|
| 1. 『般若心経』のサンスクリット原典を読む(1)名詞と動詞の復習 | 9. 形容詞の比較法 |
| 2. 『般若心経』のサンスクリット原典を読む(2)連声の復習 | 10. 韻律 |
| 3. 『般若心経』のサンスクリット原典を読む(3)関係代名詞の復習 | 11. 未来組織(1)単純未来 / 複合未来 |
| 4. 『般若心経』のサンスクリット原典を読む(4)名詞合成語の復習 | 12. 未来組織(2)条件法 / 未来分詞 |
| 5. 第2種活用動詞 | 13. 第2次活用法(1)現在組織の受動活用 |
| 6. 子音語幹名詞 | 14. 第2次活用法(2)現在組織の使役活用 |
| 7. 過去受動分詞 | 15. 文法事項のまとめ |
| 8. 現在分詞 | |

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 吹田隆道[編著]『実習サンスクリット文法』(春秋社)

《参考文献》 授業中に指示する。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b12006400 :	サンスクリット語Ⅳ～サンスクリット語文法(中級)	(松本 純子)			
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	2年次～

到達目標

サンスクリット語の文法事項を理解することができる。
サンスクリット語で書かれた文章を翻訳することができる。

キーワード

サンスクリット語 梵語 インド

事前・事後学習

事前学習 授業中に指示された翻訳問題を次回の授業までにやってくる(90分程度)
事後学習 授業で学習した文法事項をテキストで確認し復習しておく(30分程度)

授業内容

本講義はサンスクリット語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの修了者を対象としています。より実践的にサンスクリット文法を学び、サンスクリット語で書かれた文章を翻訳するために必要な知識と技術を身につけます。授業ではテキスト巻末の「選文」に収められている文章の読解を中心に、サンスクリット語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学習した文法事項の復習と未学習の文法事項について学びます。あらかじめ自分で問題を解いてきていることを前提に授業を進めますので、しっかりと予習することが必要です。

成績評価方法

平常点50％ 定期試験50％

課題に対するフィードバック

授業中に読解問題の解答・解説を行う

授業計画

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1. 基本事項の確認 | 9. 第2次活用法(2)現在組織以外の使役活用 |
| 2. 完了組織(1)単純完了 | 10. 第2次活用法(3)意欲活用 |
| 3. 完了組織(2)複合完了 / 完了分詞 | 11. 第2次活用法(4)強意活用 |
| 4. アオリスト組織(1)単純アオリスト | 12. 名詞造語法(1)第1次派生語 |
| 5. アオリスト組織(2)歯擦音アオリスト | 13. 名詞造語法(2)第2次派生語 |
| 6. アオリスト組織(3)祈願法 | 14. 名詞造語法(3)女性語幹造語法 |
| 7. 名称詞由来動詞 | 15. 文法事項のまとめ |
| 8. 第2次活用法(1)現在組織以外の受動活用 | |

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 吹田隆道[編著]『実習サンスクリット文法』(春秋社)

《参考文献》 授業中に指示する。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b12007100	チベット語Ⅰ	(スダン シャキヤ)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	1年次～

到達目標

チベット語文献を読むために必要な文法の基礎知識の獲得

キーワード

チベット大蔵経、仏教思想、文字、音節の構成、助辞

事前・事後学習

事前学習: 指定の内容を予習すること

事後学習: 講義内容を復習すること

授業内容

仏教においては経典、論書、成就法など膨大な文献が存在しますが、その全てがサンスクリット原典として現存しているわけではありません。サンスクリット原典が散逸してしまった仏教文献は、『チベット大蔵経』にチベット語訳として数多く収録されています。それらの文献は、仏教研究において看過することのできない貴重な資料であります。

本講義は、チベット語文献を解読するため、チベット語文法を学び、その基礎事項の理解力を養成することを目標とします。具体的には、チベット文字の読み方・書き方に始まる古典チベット語の初級文法を理解してゆきます。

成績評価方法

平常点:50%

授業態度・理解度:50%

課題に対するフィードバック

定期的に小テストを実施し、回答の解説を行います。

授業計画

- | | |
|---------------------------------|-----------------|
| 1. イントロダクション
チベット語・チベット文化 | 9. 名詞の格・助辞-4 |
| 2. チベット仏教
仏教研究におけるチベット文献の重要性 | 10. 名詞の格・助辞-5 |
| 3. チベット文字の書き方 | 11. 名詞の格・助辞-6 |
| 4. チベット文字の構成 綴り方と発音-1 | 12. 代名詞 |
| 5. チベット文字の構成 綴り方と発音-1 | 13. 数詞・否定詞 |
| 6. 名詞の格・助辞-1 | 14. 形容詞・副詞 |
| 7. 名詞の格・助辞-2 | 15. 敬語
文法の総括 |
| 8. 名詞の格・助辞-3 | |

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 講義中に資料を配します。

《参考文献》 高橋尚夫・前田亮道『チベット語初等文法』ノンブル社
Sarat Chandra Das *A Tibetan-English Dictionary* Rinsen Book Company
山口瑞宝 『概説チベット語文語文典』春秋社

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b12007200 :	チベット語 II	(スダン シャキヤ)			
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	1 年次～

到達目標

仏典などチベット語文献の解読力を養うこと

キーワード

チベット語の基礎文法、チベット語の意味を調べること、和訳すること、内容を理解すること

事前・事後学習

解読するチベット文献を予習し、極力和訳していくこと

授業内容

本講義では、[チベット語 I]に引き続き、古典チベット語の文法の続きを学びます。

初級文法の基礎を習得した上で、文法事項を確認しながらチベット語の文章の解読力を養成することを目指します。配布資料に掲載されている読本用の抜粋文献(『般若心経』、『維摩経』、『初会金剛頂経』などのチベット文)を和訳しながら読み進めます。

成績評価方法

平常点:50%

授業態度・理解度:50%

課題に対するフィードバック

定期的に小テストを実施し、回答の解説を行います。

授業計画

1. イントロダクション 『チベット語大蔵経』・チベットの辞書 動詞・助動詞-1
2. 動詞・助動詞-2
3. 文法の総括 読解用資料の解説
4. チベット語文(『般若心経』)の読解-1
5. チベット語文(『般若心経』)の読解-2
6. チベット語文(『般若心経』)の読解-3
7. チベット語文(『般若心経』)の読解-4
8. チベット語文(『般若心経』)の読解-5
9. チベット語文(『般若心経』)の読解-6
10. チベット語文(『維摩経』抜粋)の読解-7
11. チベット語文(『維摩経』抜粋)の読解-8
12. チベット語文(『維摩経』抜粋)の読解-9
13. チベット語文(プトン著『仏教史』抜粋)の読解-10
14. チベット語文(プトン著『仏教史』抜粋)の読解-11
15. まとめ

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 特になし。講義中に適宜資料を配布します。

《参考文献》 高橋尚夫・前田亮道『チベット語初等文法』ノンブル社
Sarat Chandra Das *A Tibetan-English Dictionary* Rinsen Book
山口瑞鳳『概説チベット語文語文典』春秋社

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b12009100	フランス語初級 フランス語は「英語のいところ」	(川崎 明仁)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	1年次～

到達目標

「フランス語」の「初級文法を理解し」、「その知識を駆使して」「初級会話ができる」。

キーワード

①フランス語は「英語のいところ」 ②「初級文法」・「初級会話」 ③「英語との比較を活用した」学習

事前・事後学習

※「テキスト」の「設問のページ」は「事後学習時に再解答できるよう」、「必ず」「書き込み前に(記入欄が空白の状態で)」「各自でコピーを取っておく」こと。

事前学習:「テキスト」の「全ての設問に目を通し」、「[電子]辞書を使ってもよい」ので、「可能な限り」「自分なりの解答」を「用意しておく」こと。

事後学習:「[上の※の指示に従って]各自であらかじめ用意した」「設問の空白コピー」を「全て」「辞書を使わずに解答し」、「間違えた設問があれば」「原因を分析し」、「以後の学習に役立てる」。

授業内容

Bonjour, chers amis! Je m'appelle Akihito Kawasaki.(皆さん、こんにちは！川崎明仁です。)

フランス語は「意外に身近な言語」である。例えば、「クレープ(crêpe)」や「アンコール(encore:再び)」は「いずれもフランス語」である。また、言語分類上、フランス語は「英語のいところ」に相当し、「英語との共通点も多い」ので、本講では「担当者自作」の「英訳プリント」を「併用し」、「英語との比較」により「理解を深めていく」。Voyons à la salle de classe!(では、教室で会いましょう！)

成績評価方法

成績判定は定期試験(70%)、平常点[出席状況、受講態度、遅刻、忘れ物などを含む](30%)の割合で、総合的に行う。「欠席(不可抗力など、本人に責任が無い旨の証明書を提出できる場合は除く。)の回数」が「学生便覧に定められた限度を超えた」者は、「定期試験の受験資格を失い、即、不認定(0点)」となる。

課題に対するフィードバック

「定期試験のフィードバック」として、「受験者各自」への「講評」を「電子メールで」「通知する」。

授業計画

1. 日本語に入ったフランス語 アルファベ(アルファベット) 略語 発音の規則
2. 会話:基本的な挨拶表現 文法:文法的性の区別(男性名詞と女性名詞)など
3. 会話:パリ観光 文法:疑問文(1)、冠詞、規則動詞(er動詞)の現在形など
4. 会話:ホテル・飲食店で 文法:形容詞の性・数一致など
5. 会話:観光の計画・予約 文法:疑問文(2)、形容詞の位置など
6. 会話:銀行で 文法:否定文、命令文など
7. 会話:カフェで 文法:部分冠詞、前置詞+定冠詞の縮約など
8. 会話:オペラ座で 文法:疑問詞疑問文(英語のwh疑問文に相当)など
9. 会話:ブティックで 文法:形容詞・副詞の比較級、目的補語人称代名詞など
10. 会話:メトロ(地下鉄)に乗る 文法:形容詞の最上級、代名動詞、非人称構文など
11. 会話:レストランで 文法:規則動詞(ir動詞)の現在形、複合過去形(1)など
12. 会話:観光案内所で 文法:複合過去形(2)、近接未来形・過去形など
13. 文法の補足①:発音記号、所有形容詞、国名・国籍の形容詞など
14. 文法の補足②:比較級・最上級の特殊形、指示代名詞、人称代名詞の強勢形など
15. 文法の補足③:代名動詞の用法・複合過去形、単純未来形、半過去形など

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 瀬戸秀一他著『街かどのフランス語』一三訂版一朝日出版社
《参考文献》授業時に適宜、指示する。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b12010100	ドイツ語初級 ドイツ語は「英語の兄弟」	(川崎 明仁)			
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	1年次～

到達目標

「ドイツ語」の「初級文法を理解し」、「その知識を駆使して」「初級会話ができる」。

キーワード

①ドイツ語は「英語の兄弟」 ②「初級文法」・「初級会話」 ③「英語との比較を活用した」学習

事前・事後学習

※「テキスト」の「設問ページ」は「事後学習時に再解答できるよう」、「必ず」「書き込み前(記入欄が空白の状態)」各自でコピーを取っておくこと。

事前学習:「テキスト」の「全ての設問に目を通し」、「[電子]辞書を使ってもよい」ので、「可能な限り」「自分なりの解答」を「用意しておく」こと。

事後学習:「[上の※の指示に従って]各自であらかじめ用意した」「設問の空白コピー」を「全て」「辞書を使わずに解答し」、「間違えた設問があれば」「原因を分析し」、「以後の学習に役立てる」。

授業内容

Guten Tag! Ich heie Akihito Kawasaki.(こんにちは！川崎明仁です。)

ドイツ語は「意外に身近な言語」である。例えば、「アルバイト(Arbeit)」や「テーマ(Thema)」は「いずれもドイツ語」である。また、言語分類上、ドイツ語は「英語の兄弟」に相当し、「英語との共通点も多い」ので、本講では「担当者自作」の「英訳プリント」を「併用し」、「英語との比較」により「理解を深めていく」。
Treffen wir uns im Klassenzimmer!(では、教室で会いましょう！)

成績評価方法

成績判定は、定期試験(70%)・平常点[出席状況、受講態度、遅刻、忘れ物などを含む](30%)の割合で、総合的に行う。「欠席(不可抗力など、本人に責任が無い旨の証明書を提出できる場合は除く。)の回数」が「学生便覧に定められた限度を超えた」者は、「定期試験の受験資格を失い、即、不認定(0点)」となる。

課題に対するフィードバック

「定期試験のフィードバック」として、「受験者各自」への「講評」を「電子メールで」「通知する」。

授業計画

1. アルファベート(アルファベット)、正書法(綴りと発音の関係)、人名など
2. 会話:自己紹介 文法:主語人称代名詞、動詞の現在形(1)、語順など
3. 会話:職業 文法:名詞の性・冠詞、名詞・疑問代名詞の格変化、並列の接続詞など
4. 会話:趣味 文法:動詞の現在形(2)、命令形、人称代名詞の3格(～に)・4格(～を)など
5. 会話:パン屋で 文法:名詞の複数形、冠詞類、keinとnicht、否定疑問文など
6. 会話:道の尋ね方 文法:前置詞の格支配、前置詞と定冠詞の融合形など
7. 会話:観光 文法:語法の助動詞、未来形、従属の接続詞、不定代名詞など
8. 会話:レストランで 文法:形容詞の格変化、比較級・最上級など
9. 会話:週末の予定 文法:分離・非分離動詞、zu不定詞など
10. 会話:週末にしたこと 文法:動詞の3基本形、現在完了形など
11. 会話:昨日したこと 文法:過去形、再帰代名詞と再帰動詞など
12. 文法の補足①:注意すべき動詞の現在形の活用、名詞の性の見分け方など
13. 文法の補足②:指示代名詞、注意すべき名詞の複数形など
14. 文法の補足③:所有冠詞、nicht(英語のnotに相当)の位置など
15. 文法の補足④:前置詞と代名詞の融合形、副詞的接続詞、形容詞の名詞化など

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 小野寿美子他著『アー・ツェット 楽しく学ぶドイツ語』朝日出版社
《参考文献》 授業時に適宜、指示する。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b13001100	宗教音楽A	(新井 弘順)			
単 位	1	期 別	春集中	学 年	1年次～

到達目標

- ・声明を宗教音楽として捉えられる
- ・宗教音楽としての声明を唱えられる

キーワード

事前・事後学習

授業内容

古代・中世における日本音楽の中心的な存在であり、かつ近世音楽にも大きな影響を与え、今日再び注目を得るに至った仏教音楽－声明－のうち、天台声明とともに二大流派である真言声明について、新義派豊山声明を中心に、日本音楽史の流れに沿って、伝承曲と一緒に唱えながら、宗教音楽としての声明について理解を深める。春学期は、声明の歴史・理論・記譜法等の概説から始め、インド・中国で作られた外来曲を学ぶ。
なお、集中講義は8月8日・9日・10日で実施する。

成績評価方法

平常点:50%
演唱試験:20%
筆記試験:30%

課題に対するフィードバック

授業計画

1. 世界の宗教音楽
2. 声明の歴史 インド・中国
3. 声明の歴史 日本
4. VTR鑑賞＜大般若転読会＞
5. 声明の音楽理論
6. 声明の記譜法・楽譜
7. 実習＜大般若心経＞＜三宝礼＞＜如来唄＞
8. VTR鑑賞＜千僧音曼荼羅＞
9. 仏教の音楽観
10. 実習＜四智梵語＞＜四智漢語＞
11. 実習＜如来唄＞＜云何唄＞
12. VTR鑑賞＜弘法大師正御影供＞
13. 仏教儀式と声明
14. 実習＜中曲理趣経＞
15. 試験－演唱と筆記－

テキストおよび参考文献等

- 《テキスト》 授業の時にテキストを配布する。
- 《参考文献》『仏教音楽』音楽之友社 1972年大山公淳著『仏教音楽と声明』1959年
『日本音楽の流れと理論』NHK邦楽技能者育成会 2000年
『声明大系レコードと解説』法蔵館 1983年

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b13001200 :	宗教音楽B	(新井 弘順)			
単 位	1	期 別	秋集中	学 年	1年次～

到達目標

- ・声明を宗教音楽として捉えられる
- ・宗教音楽としての声明を唱えられる

キーワード

事前・事後学習

授業内容

秋学期では、日本で作られた声明曲＜讃歎＞、＜教化＞、＜和讃＞、＜伽陀＞等の仏教歌謡や、漢文訓読体の読む声明曲＜祭文＞や＜表白＞、そして＜説草＞や＜論義＞、さらにわが国の語り物音楽の源流となった＜講式＞を学ぶ。最後に今日における声明の再評価、再生を声明公演や現代音楽としての創作（新作）声明を通じて考える。

なお、集中講義は1月30日・31日・2月1日で実施する。

成績評価方法

平常点:50%
 演唱試験:20%
 筆記試験:30%

課題に対するフィードバック

授業計画

1. 春学期の総復習
2. 漢文訓読－読む声明－＜祭文＞
3. 漢文訓読－読む声明－＜表白＞
4. 講経と論義＜大般若＞＜報恩講＞
5. 日本語による初期の歌謡＜舍利讃歎＞
6. 即興歌謡＜教化＞
7. 長編歌謡＜和讃＞
8. 朗詠風歌謡＜伽陀＞
9. 訓読節付による読経＜仏遺教経＞
10. 日本の語り物音楽の源流＜講式＞
11. 釈尊の入滅を語る明恵作＜涅槃講式＞
12. VTR 鑑賞＜常楽会＞
13. 声明公演－声明の社会的認知－
14. 現代音楽と創作声明－声明の再創造－
15. VTR 鑑賞＜蛙の声明＞草野心平詩石井真木作曲

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 授業のときにテキストを配布。

《参考文献》『仏教音楽』音楽之友社 1972年
 大山公淳著『仏教音楽と声明』1959年
 『日本音楽の流れと理論』NHK邦楽技能者育成会 2000年
 『声明大系レコードと解説』法蔵館 1983年

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b13002100	仏教美術A～装飾写経の制作	(中村 幸子)			
単 位	1	期 別	春学期	学 年	1 年次～

到達目標

般若心経の装飾写経を一枚作りあげられる

キーワード

装飾写経・創作・自心仏との出会い

事前・事後学習

事前学習 図書館で常に美術全集等を眺めること、あるいは展覧会情報を調べ、博物館、社寺などに直接、足を運んで自らの鑑識眼を養い、仏教世界観の表現を自らの作品に具現させる。事後学習 完成した作品を客観的に見ることにより自らの足りないところを認識し、次なるステップへの足がかりとする。

授業内容

現代は自らの手で「もの」を作るという機会が少なくなっている。本講義では写経を通じて自らの仏教世界観を深めると同時に様々な色や形によって荘厳することを学ぶ。写経とは本来、願い事を叶えてもらうために行うものではなく、今を生きる自分自身の祈りの形を具現することに意味がある。そこには必ず新たな自分を見出すことが出来る。絵を描く事、字を書く事が苦手な方も心配なく、是非新たな自分との出会いを求めて作品に臨むことが望ましい。画材料にかかる費用は、各自の予算に応じて作品を選ぶ。

成績評価方法

平常点:50%(欠席すると技術的についてこれなくなります。)作品の完成度:50%(額装が出来るように完成度を高めてください。)

課題に対するフィードバック

作品完成時に批評する。各自の作品には表面的な技術を問うのではなく、今の自分の心を表現しているのであり、次なる心のステップへの足がかりとなる作品であることを目標とした。

授業計画

1. 講義の目的と趣旨
2. 各自の予算に応じた作品を選ぶA)色鉛筆コースB)日本画コース
3. 各コースを選んで作業に入る A)般若心経下絵に色鉛筆で彩色 B)和紙に罫線を引く練習
4. A) 同上
B)和紙に罫線を引いた後、花鳥画の手本を書写
5. A) 同上 B)同上
6. A) 同上 和紙全体に地塗り彩色
7. A) 同上 B) 同上
8. A)般若心経書写B)
本紙の裏打ち、パネル貼り
9. A) 般若心経書写 B) 同上
10. A) 仕上げ(金箔貼り付け等)完成 額に入れ
るB) 花鳥画に彩色
11. A) 十二支守り本尊を選ぶB)同上
12. A)色鉛筆で彩色B)同上
13. A) 同上B)同上
14. A) 同上B) 装飾の仕上げ(金砂子の貼り付け等)
15. A) 完成 額装B)完成 額装

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 制作用下絵等を用意されたものを選ぶ
《参考文献》 中村涼應・中村幸真『装飾写経入門』NHK出版

その他

教材費に1,000～2,000円程度必要です。額縁代に1,000～3,000円程度必要です。

コード	履修科目名				(担当教員)	
b13002200 :	仏教美術B～装飾写経の種々相				(中村 幸子)	
単 位	1	期 別	秋学期	学 年	1 年次～	

到達目標

装飾写経(一字蓮台経)、折本装写経、卷子本写経(理趣経、阿弥陀経等)

キーワード

装飾写経、理趣経、観音経、阿弥陀経

事前・事後学習

事前学習 他の講義で学んだ仏教教理をしっかり身に着け、それを基本に作品を選ぶ 事後学習 他の学生の作品も絶えず観察して、独自の宗教観、色彩感を身に着ける。

授業内容

装飾写経には種々の形式があるので、各自で好みに合ったものを選ぶ。また前期仏教美術Aで完成できなかった作品を持っている者は継続して完成させる。

成績評価方法

平常点:50%(春学期に十分な技術を習得しておくことが重要。)作品の完成度:50%(各自の創造力が重要。)

課題に対するフィードバック

作品完成時にコメントする。あくまでも自らの宗教観と布教への視点を見出すことを念頭に置く。

授業計画

1. 制作テーマを決める。(制作計画表を作る。 図書館その他で調べる)仏教美術Aの制作途中にあるものは継続して完成させる。
2. 各自のテーマにあわせて作業に入る(A・Bのコースを選ぶ) A) 制作途中の継続B) 新たな作品の制作過程表をつくり、提出する。
3. A) 同上B) 教材、資料の準備。
4. A) 同上B) 下絵の書写
5. A) 同上 (なるべく完成させること)B) 下絵の書写
6. A) 新しい作品のテーマを決める。講義最終日に間に合うような作品を選ぶ。B) 下絵の書写
7. A) 制作過程表を提出B) 下絵の書写
8. A) 教材、資料の準備(色鉛筆でも可能)B) 下絵書写
9. A) 下絵の書写B) 下絵書写完成後、和紙を染める
10. A) 下絵の書写B) 和紙を染める
11. A) 下絵に彩色B) 本紙のパネル貼り
12. A) 下絵に彩色B) 顔料で彩色
13. A) 下絵の彩色B) 彩色
14. A) 写経B) 写経
15. A) 写経完成B) 写経完成

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 用意されたものを選ぶか、自ら資料を持ち込むことも可能。

《参考文献》 中村涼應・中村幸真『装飾写経入門』NHK出版

その他

受講登録に際して必ず仏教美術Aを受講しておくことが望ましい。授業計画はあくまでも目安。各自の制作の進め方には遅速があるので、各自で自覚して制作に臨むこと。作品の表具、額装などには費用がかかるので計画的に作品を選ぶこと。

コード	履修科目名	(担当教員)			
b13003100	密教瞑想A～阿字観入門	(北尾 隆心)			
単 位	1	期 別	春学期	学 年	1年次～

到達目標

真言密教の修行方法が密教瞑想であることを理解した上で、密教瞑想の集大成である阿字観を実際に体感する。

キーワード

事相、密教瞑想、月輪観、阿息観、阿字観、坐法、呼吸法

事前・事後学習

修法ノートを作成し、そこに予習したものを書き込み、また、授業で得たものを復習として書き込むと共に予習・復習において実際に密教瞑想を行い、そこで得たことの感想を書き込む。予習時間30分、復習1時間を取ってもらうことが望ましい。

修法ノートは、随時、閲覧、提出してもらうことがあります。

授業内容

真言密教は思想だけではどうにもならないのであり、それに基づいた実践行法を実際に行うことによってこそ真言密教独自の思想が明確に理解できるように構築されている。

古くは思想を「教相(きょうそう)」と云い、実践行法を「事相(じそう)」と呼び、教相と事相とは車の両輪、鳥の両翼であると喩えて、どちらも欠けることなく必要であることを明確に説き示してきたのであります。

本講では、真言密教の実践行法、事相の中核である密教瞑想の思想(観法)を解き明かすと共に、誰でもが行うことが可能なように創意工夫された最もシンプルで密教瞑想の集大成として確立された「阿字観」の思想を理解した上で「阿字観」を体感することにより、真言密教、そして、仏そのものを味わっていただくことを目的とし、目標とします。

成績評価方法

平常点50%、レポート50%により評価します。

課題に対するフィードバック

課題として提出されたものにはコメントを付けてお返しします。

授業計画

- | | |
|--------------------------|----------------------------|
| 1. ノートの作成方法
密教の目指すところ | 9. 阿字観の系譜(金剛界の阿字観・胎藏界の阿字観) |
| 2. 密教の修行方法と密教瞑想の意義 | 10. 阿字観の本尊について |
| 3. 密教の修行方法① | 11. 阿字観を実習するための解説① |
| 4. 密教の修行方法② | 12. 阿字観を実習するための解説② |
| 5. 密教瞑想の実習① | 13. 阿字観の実習① |
| 6. 密教瞑想の実習② | 14. 阿字観の実習② |
| 7. 密教の本尊観 | 15. 阿字観の実習③ |
| 8. 阿字観について | |

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 テキストについては授業にて指示します。適宜、プリント配布。

《参考文献》 北尾隆心著『密教瞑想入門－阿字観の原典を読む』(大法輪閣)。適宜、指示します。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b13003200 :	密教瞑想B～第二段階・第三段階へと進化した阿字観	(北尾 隆心)			
単 位	1	期 別	秋学期	学 年	1年次～

到達目標

阿字観とは誰でもが行うことのできる密教瞑想法であり、第一段階の阿字観から第二、第三段階へと進化した阿字観を行うことにより、密教瞑想の深遠さを理解する。

キーワード

密教瞑想、阿字観、本尊、呼吸法、深秘釈、広観、斂観、字輪観

事前・事後学習

修法ノートを作成し、そこに予習したものを書き込み。また、授業で得たものを復習として書き込むと共に予習・復習において実際に密教瞑想を行い、そこで得たことの感想を書き込む。予き込む。予習時間30分、復習1時間を取ってもらうことが望ましい。

修法ノートは、随時、閲覧、提出してもらうことがあります。

授業内容

密教瞑想(観法)とは、すべての密教の修行体系の骨格をなすものであります。何故に密教瞑想が重要なのか、ということを確認すると共に密教瞑想を体感してもらうことを目的とします。

密教瞑想の中において誰もが行うことができ、最もシンプルで密教瞑想の集大成として確立され、そして、得られる境地が最も深いとされる「阿字観」を取り上げ、阿字観のテキスト(次第)を分析することにより密教瞑想の構造を理解してもらった上で、第二、第三段階へと進化した阿字観を行ってもらい、真言密教、そして、仏そのものを味わっていただくことを目標とします。

また、850有余年を経て復興した胎藏界阿字観も紹介します。

成績評価方法

平常点50%、レポート50%により評価します。

課題に対するフィードバック

課題として提出されたものにはコメントを付けてお返しします。

授業計画

- | | |
|--------------------------------|--------------------------------|
| 1. ノートの作成方法
密教の修行方法と密教瞑想の意義 | 9. 阿字観本尊の立体化
第二段階の阿字観の実習① |
| 2. 阿字観について | 10. 第二段階の阿字観の実習② |
| 3. 阿字観と呼吸法 | 11. 第二段階の阿字観の実習③ |
| 4. 阿字観の本尊 | 12. 広観・斂観について
第三段階の阿字観の実習① |
| 5. 阿字観を実習するための解説① | 13. 第三段階の阿字観の実習② |
| 6. 阿字観を実習するための解説② | 14. 阿字観の阿字の立体化
第三段階の阿字観の実習③ |
| 7. 第一段階の阿字観の実習① | 15. 金剛界の阿字観・胎藏界の阿字観について |
| 8. 第一段階の阿字観の実習② | |

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 テキストについては授業にて指示します。

適宜、プリント配布。

《参考文献》 北尾隆心著『密教瞑想入門－阿字観の原典を読む』(大法輪閣)

適宜、指示します。

その他

コード	履修科目名				(担当教員)
b13004100 :	書道A				(那須 真裕美)
単 位	1	期 別	春学期	学 年	1 年次～

到達目標

実践としての書法と教養としての知識が身につく

キーワード

運筆法、楷書、隸書

事前・事後学習

授業中に配布したプリント資料を、毎回の授業後に熟読して内容確認をしておくこと

授業内容

古来、日本でも範とされた中国の古典書法の歴史と特徴を知り、楷書を中心に先人の書を学ぶ。今後の実践に活かすことができるよう、臨書を通じて教養・知識と運筆・用筆(筆の運び)の両面を身につけることを目的とする。書道経験の有無やその習熟度合いを問わず、講義内ではおのおのに応じた指導をするため、受講者には書道への興味と意欲をもって受講されることを希望する。
(※初回講義は実習を行わずに講義形式で進めるため、書道用具は第2回講義より使用する)

成績評価方法

平常点(出席状況含む。50%)と提出作品(50%)から総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

提出課題についての講評を、次回授業時に全体向けにフィードバックし、必要に応じて各自にコメントする

授業計画

1. 初回ガイダンス(楷書の特色・書道用具について)
2. 楷書の基本的運筆(六朝楷書)
3. 欧陽詢 九成宮醴泉銘(1)
4. 欧陽詢 九成宮醴泉銘(2)
5. 欧陽詢 九成宮醴泉銘(3)
6. 欧陽詢 九成宮醴泉銘(4)
7. 虞世南 孔子廟堂碑(1)
8. 虞世南 孔子廟堂碑(2)
9. 虞世南 孔子廟堂碑(3)
10. 柳公權 雁塔聖教序(1)
11. 柳公權 雁塔聖教序(2)
12. 柳公權 雁塔聖教序(3)
13. 顔真卿 多宝塔碑
14. 隸書の基本的運筆(曹全碑)(1)
15. 隸書の基本的運筆(曹全碑)(2)

テキストおよび参考文献等

- 《テキスト》 講義時にプリントを配布する
- 《参考文献》 必要に応じて、講義内で適宜紹介する

その他

コード	履修科目名		(担当教員)		
b13004200 :	書道B		(那須 真裕美)		
単 位	1	期 別	秋学期	学 年	1 年次～

到達目標

実践としての書法と教養としての知識が身につく

キーワード

運筆法、行書、草書

事前・事後学習

授業中に配布したプリント資料を、毎回の授業後に熟読して内容確認をしておくこと

授業内容

古来、日本でも範とされた中国の古典書法の歴史と特徴を知り、行・草書を中心に先人の書を学ぶ。今後の実践に活かすことができるよう、臨書を通じて教養・知識と運筆・用筆(筆の運び)の両面を身につけることを目的とする。書道経験の有無やその習熟度合いを問わず、講義内ではおののにおにに応じた指導をするため、受講者には書道への興味と意欲をもって受講されることを希望する。
(※初回講義は実習を行わずに講義形式で進めるため、書道用具は第2回講義より使用する)

成績評価方法

平常点(出席状況含む。50%)と提出作品(50%)から総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

提出課題についての講評を、次回授業時に全体向けにフィードバックし、必要に応じて各自にコメントする

授業計画

1. 初回ガイダンス(行草書の特徴・書道用具について)
2. 行・草書の基本的運筆(1・蘭亭叙)
3. 行・草書の基本的運筆(2・興福寺断碑)
4. 王羲之 集字聖教序(行書)(1)
5. 王羲之 集字聖教序(行書)(2)
6. 王羲之 蘭亭序(行書)(1)
7. 王羲之 蘭亭序(行書)(2)
8. 王羲之 蘭亭序(行書)(3)
9. 王羲之 蘭亭序(行書)(4)
10. 王羲之 十七帖(草書)(1)
11. 王羲之 十七帖(草書)(2)
12. 孫過庭 書譜 (草書)(1)
13. 孫過庭 書譜 (草書)(2)
14. 唐代の行草書(顔真卿)
15. 宋代の行草書(米芾)

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 講義時にプリントを配布する

《参考文献》 必要に応じて、講義内で適宜紹介する

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b13006100	日本美術史A～仏教美術を中心に	(長谷 法寿)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	1 年次～

到達目標

日本における仏教美術の歴史(インドから日本の奈良時代まで)

キーワード

釈尊伝、仏教の伝来、密教の伝来

事前・事後学習

事前:授業計画の各年代の美術について調べておくこと。

事後:授業後、新しく知った事をノートに書きとめる。

授業内容

仏教美術(仏像、仏画)の歴史を中心に本講義を進めて行く。講義の進め方としては、インドの仏教美術、仏伝図から始め、日本へ伝わった仏像、仏画の歴史を観る。前期では、仏教伝来時から奈良時代までを解説する。

成績評価方法

平常点(出席状況と授業態度)40%

定期試験(レポート)60%により評価する。

課題に対するフィードバック

最終授業時に全体向けにフィードバックする。

授業計画

1. 仏教美術の概要(インド・中国・日本)
※以下()内の数字は西暦年
2. 釈尊伝と仏伝図(インド)仏教像と密教像
3. 縄文時代から仏教伝来(紀元前～538年)
4. 欽明11年から崇峻元年(550～588)の仏教美術
5. 推古2年から推古17年(594～609)の仏教美術
6. 推古30年から大化元年(622～645)の仏教美術
7. 大化6年から天智5年(650～666)の仏教美術
8. 天武14年から大宝2年(685～702)の仏教美術
9. 飛鳥・白鳳時代の仏教美術
10. 慶雲3年から霊龜3年(706～716)の仏教美術
11. 養老3年から天平6年(719～734)の仏教美術
12. 天平勝宝・元年から天平宝宇7年(749～763)の仏教美術
13. 天平宝宇8年から延暦10年(764～791)の仏教美術
14. 奈良・天平時代の仏教美術(前編)
15. 奈良・天平時代の仏教美術(後編)

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 毎回レジュメを作成し、配布もしくは板書で解説する。

《参考文献》『ほんとうにすごい仏像図鑑』長谷法寿監修 朝日新聞社2021年刊

その他

【講師の外部経歴】真言宗僧侶 賢劫造佛所仏師

コード	履修科目名	(担当教員)			
b13006200	日本美術史B～仏教美術を中心に	(長谷 法寿)			
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	1年次～

到達目標

約400年にわたる平安初期から鎌倉時代の仏教美術の流れを解説することにより、年代順に変化してゆく彫刻様式等が識別できる

キーワード

密教美術、浄土教美術、鎌倉時代の仏教美術

事前・事後学習

事前:授業計画の各年代の美術について調べておくこと。
事後:授業後、新しく知った事をノートに書きとめる。

授業内容

前期の奈良・天平時代の仏教美術に続いて、後期では平安時代初期から鎌倉時代の仏教美術を解説する。

成績評価方法

平常点(出席状況と授業態度)40%
定期試験(レポート)60%により評価する。

課題に対するフィードバック

最終授業時に全体向けにフィードバックする。

授業計画

1. 弘法大師の御行状と密教美術(前編)
2. 弘法大師の御行状と密教美術(後編)
3. 延暦12年から大同元年(793～806)年の仏教美術
4. 弘仁3年から承和元年(812～834)の仏教美術
5. 承和6年から斉衡2年(839～855)の仏教美術
6. 貞観時代の仏教美術(859～876)の仏教美術
7. 元慶から寛平時代(877～897)の仏教美術
8. 醍醐帝時代(897～930)の仏教美術
9. 藤原時代(931～956)の仏教美術
10. 藤原時代(957～1053)の仏教美術
11. 平安時代の仏教美術(前期)
12. 平安時代の仏教美術(中期)
13. 平安時代の仏教美術(後期)
14. 鎌倉時代(1192～1243)の仏教美術
15. 鎌倉時代(1244～1333)の仏教美術

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 レジユメを作成配布し、板書と拡大写真で解説する。
《参考文献》『ほんとうにすごい仏像図鑑』長谷法寿監修 朝日新聞社2021年刊

その他

【講師の外部経歴】真言宗僧侶 賢劫造佛所仏師

コード	履修科目名				(担当教員)
b13007200	古文書学B～基礎・初歩から少し前進				(左右田 昌幸)
単 位	2	期 別	春学期	学 年	1年次～

到達目標

くずし字辞書や漢和辞典・年表などを使って、ある古文書が相手に何を伝えようとしているのか判る

キーワード

近世真宗 本願寺 くずし字 古文書

事前・事後学習

事前学習 配布されたくずし字の史料を、解読できる範囲で解読にチャレンジする。

事後学習 解読の終わったくずし字の史料を音読・訓読する。

授業内容

真宗関係の古文書を材料にして、古文書解読の楽しさ・面白さを伝えることを目指します。講義は、基礎の基礎から再出発します。古文書は、解読した文字だけが情報ではありません。書き直しされた古文書や下書古文書なども採り上げて、一通の古文書から情報を取り出す間口を少しでも広げたいと考えています。用意する教材としての古文書は、近世の「真宗」関係のものとなります。真言宗との相違点にも視野を向ける予定です。江戸時代の「候文」を音読することによって、音でも体に染みこませることが重要です。

成績評価方法

定期試験:80%(春学期同様。他人の解答を見ることは禁止。何を持ち込んでも自由。)

学習への参加度・平常点:20%

試験終了後にその場で、受講生に回答を提示します。

課題に対するフィードバック

一方的な講義とはしないで、受講生が黒板に解読を板書し、その解読を音読・訓読する。その度に、適宜、注意・指導をおこなう。

授業計画

1. 古文書解読の基礎の確認
2. 禁制1
3. 禁制2
4. 講関係の古文書1
5. 講関係の古文書2
6. 講関係の古文書3
7. 寺・道場の相続1
8. 寺・道場の相続2
9. 寺争論1
10. 寺争論2
11. 町の中の真宗寺院
12. 村の中の真宗寺院
13. 日次記の世界1
14. 日次記の世界2
15. 日次記の世界3

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 教材となる古文書のコピーは、すべて担当者が準備します。

《参考文献》 漢和辞典 くずし字辞典

その他

スマホ・携帯で、「AI手書きくずし字検索」も使用します。

コード	履修科目名	(担当教員)			
b13008100 :	仏教文学A 「英語との対訳」で学ぶ「空海の生涯」	(川崎 明仁)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	1 年次～

到達目標

「空海の生涯」について「英語で」「理解」「表現」できる

キーワード

①「弘法大師」「空海」の「生涯」 ②「日本語と英語の比較」で「仏教・密教を学ぶ」③「和文英訳」と「英文和訳」の「差異」から学ぶ「日本語と英語の発想の違い」

事前・事後学習

事前学習:「プリント」の「英文中の語句を参考にして」「語群から適切な日本語を選び」、「日本語の原文」を「可能な限り」「復元しておく」とともに、「未習の語句」は「必ず」「[電子]辞書で」「意味だけでなく」「発音やアクセントも」「調べ」、「必要事項」は「プリントの余白」に「自筆で」「書き込んでおく」。
事後学習:「プリント」の「英文だけを見て」、「[電子]辞書を使って」「自分で和訳(直訳)を作り」「ルーブリーフやノート等」に書いた後、「日本語の原文と見比べて」、「日本語と英語の発想の違い」を「実感する」。

授業内容

本講では、「綜藝種智院の創立者」たる「空海」の「生涯」のうち、「誕生」から「師の入寂」までについて、「英語との対訳」で学んでいく。「空海」は、「宗教家のみならず」、「書家」「教育者」「建築家」「外交家」等としても素晴らしい功績を残しており、「これらについて学ぶこと」は「本学の学生としては当然のこと」であるので、「[両学科の]全学生」が「卒業年次までに受講する」ことが「望ましい」。

成績評価方法

成績判定は、定期試験(70%)、平常点[出席状況、受講態度、遅刻、忘れ物などを含む](30%)の割合で総合的に行う。A(春学期)・B(秋学期)とも、「欠席(不可抗力など、本人に責任が無い旨の証明書を提出できる場合は除く。)」の「回数」が「学生便覧に定められた限度を超えた」者は、「定期試験の受験資格を失い、即、単位不認定(0点)」となる。

課題に対するフィードバック

「定期試験のフィードバック」として、「受験者各自」への「講評」を「電子メールで」「通知する」。

授業計画

- | | |
|---|--|
| 1. 誕生 Birth | 9. 留学僧として唐へ Leaving for Tang China to Devote Himself to Studying Esoteric Buddhism |
| 2. 神童「真魚」 Child Prodigy Mao | 10. 命がけの航海 Sailing at the Risk of Life |
| 3. 平安京での学び Studying in Heiankyo (Kyoto as an ancient capital) | 11. 阻まれた上陸 Prevented Landing |
| 4. 密教との運命的な出会い Fateful Encounter with Esoteric Buddhism | 12. 長安に到着 Arrival in Changan (the present Xi'an), the Capital of Tang China |
| 5. 山野での壮絶な修行 Ascetic Practices in Fields and Mountains | 13. 恵果(運命の師)との出会い Encounter with Hui-guo (Kukai's fateful guru) |
| 6. 神秘体験 Mystic Experience | 14. 二つの灌頂 Two Abhiseka Baptisms |
| 7. 大日経との出会い Encounter with Mahavairocana Sutra (one of important sutras in esoteric Buddhism) | 15. 恵果の入寂 Hui-guo's Passing Away |
| 8. 空海と鉱山 Kukai and Mines | |

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 授業の都度、教員がプリントを配布する。
《参考文献》 授業時に適宜、指示する。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b13008200 :	仏教文学B 「英語との対訳」で学ぶ「空海の生涯」	(川崎 明仁)			
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	1年次～

到達目標

「仏教文学A」に「同じ」。

キーワード

「仏教文学A」に「同じ」。

事前・事後学習

「仏教文学A」に「同じ」。

授業内容

本講では、「春学期に開講」の「本科目(仏教文学)A」に続いて、「空海」の「生涯」のうち、「帰国」から「入定」までについて、「英語との対訳」で学んでいく。
Aと同様、「空海の生涯について学ぶこと」は、「本学の学生としては当然のこと」なので、「[両学科の]全学生」が「卒業年次までに受講する」ことが「望ましい」。

成績評価方法

「仏教文学A」に「同じ」。

課題に対するフィードバック

「仏教文学A」に「同じ」。

授業計画

- | | |
|--|---|
| 1. 帰国 Returning to Japan | 9. 東寺を造営 Building Toji Temple |
| 2. 「請来目録」を朝廷に上奏 Presentation of "Catalog of Items Brought from Tang China" to the Imperial Court | 10. 語学の達人、空海 Kukai as a Master of Language Learning |
| 3. 政変を解決 Settlement of a Coup d'État | 11. 国際人、空海 Kukai as a Cosmopolitan |
| 4. 嵯峨天皇との出会い Encounter with Emperor Saga | 12. 土木技師、空海 Kukai as a Civil Engineer |
| 5. 最澄との出会い・別れ Encounter and Parting with Saicho | 13. 教育者、空海 Kukai as an Educator |
| 6. 藤原氏との交流 Association with the Fujiwara Clan | 14. 空海の宇宙観 Kukai's Outlook on the Universe |
| 7. 空海の十大弟子 Kukai's Ten Great Disciples | 15. 入定 Entering the Eternal Meditation |
| 8. 高野山を造営 Building Koyasan Temple | |

テキストおよび参考文献等

《テキスト》「仏教文学A」に「同じ」。
《参考文献》「仏教文学A」に「同じ」。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b14051100 :	インド哲学概論A～ウパニシャッドとアビダルマ	(松本 峰哲)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	1年次～

到達目標

ヒンドゥー教・仏教等インド諸宗教の持つ独自の哲学思想のそれぞれの違いを説明できる。

キーワード

ヴェーダ、ウパニシャッド、アビダルマ、バラモン教

事前・事後学習

哲学は自身で思考することが重要ですので、講義中に出てきた新しい哲学概念についてはしっかりと復習(4時間程度)してください。予習は特には不要です。

授業内容

インドでは古代から哲学が発展しました。インド哲学の大きな特徴は、哲学と宗教が常に密接に関係していることにあります。つまり、哲学を知らずにインドの宗教を知るのは困難であり、宗教観を無視して哲学を考えることも困難なのです。ですから、同じインド発祥の宗教である仏教を理解する上でも、インド哲学を知ることは非常に重要です。

本講義ではインドの哲学のうち、特に1世紀頃までの思想についてお話します。

哲学は自身で思考することが重要ですので、講義中に出てきた新しい哲学概念についてはしっかりと復習(4時間程度)してください。

成績評価方法

平常点:30%(出席率及び授業態度)

レポート:70%

課題に対するフィードバック

レポートにコメントを付けて返却します。

授業計画

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1. イントロダクション | 9. 仏教の成立とアビダルマ哲学(3) |
| 2. インド哲学とは何か | 10. 仏教の成立とアビダルマ哲学(4) |
| 3. ヴェーダとウパニシャッドの哲学(1) | 11. バラモン哲学の成立(1) |
| 4. ヴェーダとウパニシャッドの哲学(2) | 12. バラモン哲学の成立(2) |
| 5. ヴェーダとウパニシャッドの哲学(3) | 13. バラモン哲学の成立(3) |
| 6. ヴェーダとウパニシャッドの哲学(4) | 14. バラモン哲学の成立(4) |
| 7. 仏教の成立とアビダルマ哲学(1) | 15. まとめ |
| 8. 仏教の成立とアビダルマ哲学(2) | |

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 立川武蔵『はじめてのインド哲学』講談社現代新書

《参考文献》 講義中に適宜紹介します。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b14051200 :	インド哲学概論B～大乘仏教哲学とバラモン哲学	(松本 峰哲)			
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	1年次～

到達目標

ヒンドゥー教・仏教等インド諸宗教の持つ独自の哲学思想のそれぞれの違いを説明できる。

キーワード

大乘仏教、タントリズム、ヒンドゥー教

事前・事後学習

哲学は自身で思考することが重要ですので、講義中に出てきた新しい哲学概念についてはしっかりと復習(4時間程度)してください。予習は特には不要です。

授業内容

インドでは古代から哲学が発展しました。インド哲学の大きな特徴は、哲学と宗教が常に密接に関係していることにあります。つまり、哲学を知らずにインドの宗教を知ることは困難であり、宗教観を無視して哲学を考えることも困難なのです。ですから、同じインド発祥の宗教である仏教を理解する上でも、インド哲学を知ることは非常に重要です。

本講義ではインドの哲学のうち、特に2世紀以降・現代までの思想についてお話します。

哲学は自身で思考することが重要ですので、講義中に出てきた新しい哲学概念についてはしっかりと復習(4時間程度)してください。

成績評価方法

平常点:30%(出席率及び授業態度)

レポート:70%

課題に対するフィードバック

レポートにコメントを付けて返却します。

授業計画

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| 1. イントロダクション | 9. バラモン哲学の展開(4) |
| 2. 大乘仏教の興隆と中観・唯識(1) | 10. バラモン哲学の展開(5) |
| 3. 大乘仏教の興隆と中観・唯識(2) | 11. タントリズム(1) |
| 4. 大乘仏教の興隆と中観・唯識(3) | 12. タントリズム(2) |
| 5. 大乘仏教の興隆と中観・唯識(4) | 13. タントリズム(3) |
| 6. バラモン哲学の展開(1) | 14. 仏教・ヒンドゥー教以外のインド宗教 |
| 7. バラモン哲学の展開(2) | 15. まとめ |
| 8. バラモン哲学の展開(3) | |

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 立川武蔵『はじめてのインド哲学』講談社現代新書

《参考文献》 講義中に適宜紹介します。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b14052100 :	日本思想史A ～原始・古代から中世の思想の展開～	(向井 啓二)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	1年次～

到達目標

- ・思想という人間の観念にも歴史的な変遷があることが理解できる。
- ・人間の誕生とともに思想が生まれ、それが受け継がれて変化していくことが理解できる。
- ・日本の思想が日本だけの思想ではなく、当時の社会や諸外国からの様々な影響を受けて形成されていることが理解できる。
- ・思想とは宗教や日常の文化をも含んだものであることが理解できる。

キーワード

古代～中世の宗教の展開 思想の変化 思想と社会の関係

事前・事後学習

事前:毎回の授業終了時に次回扱うテーマについて予告するので、人物や事項について下調べしておくこと。

事後:授業終了時にその日学んだ内容について簡単にまとめるレポートを作成し、提出してもらう。

授業内容

古代から中世にかけての日本人の思考を理解する。史料(資料)を利用し、各時代の思想について理解することができる。

成績評価方法

平常点40%(出席は特に重視する)

定期テストまたはレポート60%

課題に対するフィードバック

最終授業時に、これまで授業で取り上げた内容を要約・整理し、フィードバックする。

授業計画

- | | |
|--------------------------|------------------|
| 1. 思想とは何か | 9. 中世仏教思想②:栄西・道元 |
| 2. 原始人の思想とは一文字のない世界の思想―― | 10. 中世仏教思想③:日蓮 |
| 3. 古代の思想①:『古事記』① | 11. 中世封建思想 |
| 4. 古代の思想②:『古事記』② | 12. 中世民衆思想 |
| 5. 古代仏教思想①:導入にあたって | 13. 復習①:古代思想概括 |
| 6. 古代仏教思想②:奈良時代の仏教 | 14. 復習②:中世思想概括 |
| 7. 古代仏教思想③:平安時代の仏教 | 15. まとめ・ふり返し |
| 8. 中世仏教思想①:法然・親鸞 | |

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 特になし。必要に応じてプリントを作成し配布する。

《参考文献》 特になし。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b14052200	日本思想史B～近世から近代・現代までの思想の変化～	(向井 啓二)			
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	1年次～

到達目標

- ・中世までの思想の歴史が次の時代にも影響を与え、思想の歴史ができあがっていくことが理解できる。
- ・近世の思想の代表的な流れを理解することができる。特に近世の思想が日本だけの狭い発達でないことが理解できる。特に頂点思想家だけでなく我々のような民衆にも思想が形成されていることを理解できる。
- ・近代の思想は、これまで以上に社会や経済の変化に影響されて変化していることが理解できる。

キーワード

儒学(儒教) 国学 蘭学 啓蒙思想 民権思想 近代思想の展開

事前・事後学習

- 事前: 毎回授業終了時に次回扱うテーマについて予告するので、それらに関する人物や事項について下調べしておくこと。
- 事後: 授業終了時にその日学んだ内容について簡単にまとめるレポートを作成し、提出してもらう。

授業内容

江戸時代までの思想は中世までの宗教思想とは異なり、様々な学問の形成とそれを説いた人々の思想が中心となることを理解する。同じく近現代の様々な思想家の思想が社会や経済の変化に影響を受けていることを理解する。

成績評価方法

- 平常点40%(出席は特に重視する。)
- 定期テストまたはレポート60%

課題に対するフィードバック

最終授業時に、これまで授業で取り上げた内容を要約・整理し、フィードバックする。

授業計画

- | | |
|-------------------------|--------------------|
| 1. 近世の儒学①: 朱子学 | 9. 18世紀の開明思想・幕末の思想 |
| 2. 近世の儒学②: 陽明学 | 10. 近代思想①: 啓蒙思想家 |
| 3. 近世の儒学③: その他の学派 | 11. 近代思想②: 民権思想 |
| 4. 近世の国学① | 12. 近代思想③: 社会主義思想 |
| 5. 近世の国学② | 13. 現代思想①: 庶民の思想 |
| 6. 近世の蘭学① | 14. 現代思想②: 欧米思想の影響 |
| 7. 近世民衆思想①: 農民・町人の思想 | 15. まとめ・ふり返り |
| 8. 近世民衆思想②: 百姓一揆・近世仏教思想 | |

テキストおよび参考文献等

- 《テキスト》 特になし。必要に応じてプリントを作成し配布する。
- 《参考文献》 特になし。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b14059100	心理学概論A	(本多 隆司)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	1年次～

到達目標

心理学の基礎理論や方法論を体系的に理解し対人援助の実践に生かす

キーワード

心理学基礎理論、心理的支援

事前・事後学習

事前に教科書等により準備をしておく。授業内容で関心を持った領域やテーマに関して、授業資料で示した参考文献等を通じて理解を深める。社会福祉士、精神保健福祉士をめざす場合は心理学概論Bもあわせて履修することが望ましい。

授業内容

心理学による人間理解をすすめるため基礎理論や方法論を概説する。歴史と方法、知覚、学習、記憶、発達など「人の心理学的理解」をテーマに基礎的分野を論じていく。特に社会福祉士や精神保健福祉士に必要な心理学的知見や手法を実践に活用できることを目標とする。学習目標1.心理学の展開やその対象領域など心理学の視点を理解できる。学習目標2.人の心の仕組みや機能などを心理学的に理解できる。学習目標3.人の心と体の成長・発達の過程を理解できる。

学習目標4.日常生活と心の健康の関係について理解できる。

学習目標5.心理学理論を基礎としたアセスメントと支援の方法と実際を理解できる。

成績評価方法

平常点:10% 中間レポート:40% 定期試験:50%

課題に対するフィードバック

最終回の「まとめ」においてフィードバックする。

授業計画

- | | |
|------------------------|---|
| 1. オリエンテーション:心理学の枠組み | 9. 人の心理学的理解7:思考(認知)知能 |
| 2. 心理学の歴史・領域・研究法 | 10. 人の成長・発達と心理1:発達 |
| 3. 人の心理学的理解1:感覚 | 11. 人の成長・発達と心理2:ライフサイクル |
| 4. 人の心理学的理解2:知覚(認知) | 12. 日常生活と心の健康1:パーソナリティ |
| 5. 人の心理学的理解3:記憶(認知) | 13. 日常生活と心の健康2
:ストレスとストレスケア |
| 6. 人の心理学的理解4:学習 | 14. 心理的支援の方法と実際1
:コミュニケーションと心理支援(家族療法) |
| 7. 人の心理学的理解5:情動・感情/攻撃性 | 15. 心理的支援の方法と実際2
:アセスメントから心理支援へ |
| 8. 人の心理学的理解6:動機づけ | |

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 長谷川寿一・東條正城・大島尚・丹野義彦
『はじめて出会う心理学』第3版 有斐閣アルマ
《参考文献》適宜配付する。

その他

【授業担当者の実務歴】児童相談所(現、子ども家庭センター)、矯正・保護施設、障害者支援施設等でのアセスメント、心理支援(セラピー)、職員等へのスーパーバイズなど臨床心理学の実践を授業に行かす。

コード	履修科目名	(担当教員)			
b14059200	心理学概論B	(本多 隆司)			
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	1年次～

到達目標

基礎理論に加え臨床心理学の知見を理解し対人援助の実践に生かす

キーワード

臨床心理学、心理支援、サイコセラピー

事前・事後学習

事前に教科書等により準備をしておく。授業内容で関心を持った領域やテーマに関して、授業資料で示した参考文献等を通じて理解を深める。社会福祉士、精神保健福祉士をめざす場合は心理学概論Aもあわせて履修することが望ましい

授業内容

心理学による人間理解をすすめるため基礎理論、および臨床心理学の知見や研究成果を概説する。愛着、アセスメント、トラウマ、心理支援などの基礎分野から臨床分野、さらに発達障害など多岐にわたるテーマについて論じる。社会福祉士や精神保健福祉士に必要な心理学的知見や手法を実践に活用できることを目標とする。学習目標1.心理学の展開やその対象領域など心理学の視点を理解できる。学習目標2.人の心の仕組みや機能などを心理学的に理解できる。学習目標3.人の心と体の成長・発達の過程を理解できる。学習目標4.日常生活と心の健康の関係について理解できる。学習目標5.心理学理論を基礎としたアセスメントと支援の方法と実際を理解できる。

成績評価方法

平常点:10% 小レポート:40% 定期試験:50%

課題に対するフィードバック

最終回の「まとめ」においてフィードバックする。

授業計画

- | | |
|-------------------------|---|
| 1. オリエンテーション:現代の課題、脳と心 | 9. 心理的支援の方法と実際4:精神分析療法 |
| 2. 人の心理学的理解8:社会的行動 | 10. 心理的支援の方法と実際5:
来談者中心療法/遊戯療法/箱庭療法 |
| 3. 人の成長・発達と心理3:愛着形成と障害 | 11. 心理的支援の方法と実際6:認知行動療法 |
| 4. 人の成長・発達と心理4:愛着と社会福祉 | 12. 人の成長・発達と心理3:
発達障害(自閉症スペクトラム障害) |
| 5. 人の成長・発達と心理5:児童虐待への対応 | 13. 人の成長・発達と心理4:
発達障害(注意欠如・多動性障害/学習障害) |
| 6. 日常生活と心の健康2:ストレス/トラウマ | 14. 人の成長・発達と心理5:発達障害児者支援 |
| 7. 日常生活と心の健康3:トラウマケア | 15. まとめ(非行・加害) |
| 8. 心理的支援の方法と実際3:アセスメント | |

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 長谷川寿一・東條正城・大島尚・丹野義彦『はじめて出会う心理学』第3版有斐閣アルマ
《参考文献》 適宜配付する。

その他

【授業担当者の実務歴】児童相談所(子ども家庭センター)、矯正施設、障害者支援施設等でのアセスメント、心理支援(セラピー)、職員等へのスーパーバイズなど臨床心理学の実践を授業に行かす。

コード	履修科目名	(担当教員)			
b14060100 :	社会学概論A	(西牟田 真希)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	1年次～

到達目標

社会学で扱う概念を使った、ものの見方や考え方を学ぶ。
授業で習った議論を展開し、論述する

キーワード

事前・事後学習

授業内容

この講義では、社会学用語や概念を理解し、さまざまな考え方を区別して、説明できるようになることを目的とする。春学期は、社会のしくみと現代社会の変化や社会問題の背後に影響する秩序関係を見いだすことを目標とする。
授業は講義形式で行うが、各単元の終わりに、授業内容を用いて整理し、根拠をまとめる課題を設ける。この授業課題では、講義の議論に賛成するか反対するかなどの立場と理由を説明する場合もある。最終的には本講義を通して、賛成と反対など両方の立場が成立することと、同時に現代社会においても絶対的に正しい選択肢や正解があるわけではない中から、社会における問題について自分の立場を示す方法を学ぶ。なお、秋学期に開講される社会学概論Bとあわせて受講することが望ましい。

成績評価方法

平常点と授業中課題(40%)、筆記試験(60%)により、総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

授業計画

- | | |
|---------------------------------|--------------------------|
| 1. オリエンテーション…本講義のねらいと進め方・社会学の視点 | 9. 社会構造と変動・エスニシティと人種(1) |
| 2. 自己と他者・ジェンダー(1) | 10. 社会構造と変動・エスニシティと人種(2) |
| 3. 自己と他者・ジェンダー(2) | 11. 社会構造と変動・在日外国人(1) |
| 4. 市民社会と公共性・フェミニズム(1) | 12. 社会構造と変動・在日外国人(2) |
| 5. 市民社会と公共性・フェミニズム(2) | 13. 生活と人生・エイズ(1) |
| 6. 市民社会と公共性・メンズ・スタディ(1) | 14. 生活と人生・エイズ(2) |
| 7. 市民社会と公共性・メンズ・スタディ(2) | 15. まとめ |
| 8. 社会構造と変動・マイノリティ | |

テキストおよび参考文献等

- 《テキスト》 伊藤公雄・橋本満編、『はじめて出会う社会学——社会学はカルチャー・スタディー』有斐閣、1998年。(授業で使用する場合は、該当部分を教員がプリントで配布する)教科書に指定しないが、読んでおくことをすすめる。
- 《参考文献》 奥村隆編、『はじまりの社会学——問いつづけるためのレッスン——』ミネルヴァ書房、2018年。玉野和志編、『ブリッジブック社会学』信山社、2008年。(授業で使用する場合は、該当部分を教員がプリントで配布する)

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b14060200 :	社会学概論B	(西牟田 真希)			
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	1年次～

到達目標

社会学で扱う概念を使った、ものの見方や考え方を学ぶ
授業で習った議論を展開し、論述する

キーワード

事前・事後学習

授業内容

この講義では、社会学用語や概念を理解し、さまざまな考え方を区別して、説明できるようになることを目的とする。秋学期は、日常生活や現代社会の問題が、社会学の理論でどのように説明することができるかを中心に、授業を進める。
授業は講義形式で行うが、各単元の終わりに、授業内容を用いて整理し、根拠をまとめる課題を設ける。この授業課題では、講義の議論に賛成するか反対するかなどの立場と理由を説明する場合もある。最終的には本講義を通して、賛成と反対など両方の立場が成立することと、同時に現代社会においても絶対的に正しい選択肢や正解があるわけではない中から、社会における問題について自分の立場を示す方法を学ぶ。
なお、春学期に開講される社会学概論Aとあわせて受講することが望ましい。

成績評価方法

平常点と授業中課題(40%)、筆記試験(60%)により、総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

授業計画

- | | |
|---------------------------------|------------------------|
| 1. オリエンテーション…本講義のねらいと進め方・社会学の視点 | 9. 生活と人生・ファッション |
| 2. 社会構造と変動・カルト | 10. 生活と人生・メディア |
| 3. 社会構造と変動・宗教と科学 | 11. 市民社会と公共性・メディアと社会 |
| 4. 社会構造と変動・新宗教 | 12. 市民社会と公共性・音楽とメディア |
| 5. 自己と他者・神秘体験 | 13. 生活と人生・ヴァーチャル・リアリティ |
| 6. 自己と他者・ボディ | 14. カルチャー・スタディとは何か |
| 7. 自己と他者・身体と社会 | 15. まとめ |
| 8. 生活と人生・スポーツ | |

テキストおよび参考文献等

- 《テキスト》 伊藤公雄・橋本満編、『はじめて出会う社会学——社会学はカルチャー・スタディー——』有斐閣、1998年。(授業で使用する場合は、該当部分を教員がプリントで配布する)教科書に指定しないが、読んでおくことをすすめる。
- 《参考文献》 奥村隆編、『はじまりの社会学——問いつづけるためのレッスン——』ミネルヴァ書房、2018年。玉野和志編、『ブリッジブック社会学』信山社、2008年。(授業で使用する場合は、該当部分を教員がプリントで配布する)

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b15001100	寺院運営論	(村主 康瑞)			
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	1年次～

到達目標

現代の宗教者として、自己の在り方が明確になる
寺院住職として、寺院運営に必要な知識が習得できる

キーワード

寺院運営

事前・事後学習

事前学習: 寺院の役割や寺院運営について考え、ノートにまとめる。

事後学習: 毎回の授業後に、重要な点や印象深い点などをノートにまとめる。

授業内容

寺院は、地域の一つの中心として、社会におけるコミュニティーの性格を担ってきたが、現代においては都市化が進む中で、寺院の位置づけが明確ではなく、希薄となってきている。

それ故に、今日においてこそ寺院の役割を明確にする必要が生じているのであり、現代の寺院に求められている活動やその理念を明確にすることが必要になってきている。

本学に学ぶことにより、寺院経営者あるいは宗教者としての哲学や心構えを自らのなかに構築してもらいたい。

成績評価方法

平常点100%

課題に対するフィードバック

講義内で随時、フィードバックを行う。

授業計画

1. 村主康瑞教授 担当
 - 現代社会における寺院分析を行い、各自の立場を対比させる。
 - 現在の寺院形態を知る。
 - 檀家制を考える。
 - 各宗派宗団を分析し考える。
 - 宗教哲学を学ぶ。
 - 聖と俗を考える。
 - 日本の宗教心を考える。
 - 宗教者としての自分と社会あるいは家族を考える。
 - 実務を学ぶ。(行法・作法・作務)
2. 学外講師等チェーンレクチャー
 - 宗教法人監督官庁担当者から、宗教法人法・宗教法人規則を学ぶ。
 - 公認会計士から寺院会計を学ぶ。
 - 元アナウンサーから話し方の基礎を学ぶ。

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 とくに使用しない。

《参考文献》 とくに使用しない。

その他

コード	履修科目名		(担当教員)		
b15011100	スポーツ実技1		(加藤 大門)		
単 位	1	期 別	春学期	学 年	1 年次～

到達目標

生涯スポーツを基本技術から学び、ゲームを楽しむようにする。

キーワード

スポーツ、コミュニケーション、健康

事前・事後学習

事前学習：次回行うスポーツの動画などを観て知識を高めておく。

事後学習：どうすればもっと上手くできるか考え次回にいかす。

授業内容

本授業では、生涯スポーツとして幅広い年齢層に親しまれているスポーツを、基本技術から学び、ゲームを通して意欲、態度、協調性などチームワークに必要な内容として学習していく。

履修人数により種目を変更する場合がある。

成績評価方法

平常点:60%

レポート:40%

課題に対するフィードバック

次回授業時にコツや答えをフィードバックする。

授業計画

1. ガイダンス
2. バドミントン① ルールの理解と実施
3. バドミントン② 基本技術の習得
4. バドミントン③ 応用技術の習得
5. 卓球① ルールの理解と実施
6. 卓球② 基本技術の習得
7. 卓球③ 応用技術の習得
8. バスケットボール① ルールの理解と実施
9. バスケットボール② 基本技術の習得
10. バスケットボール③ 応用技術の習得
11. バレーボール① ルールの理解と実施
12. バレーボール② 基本技術の習得
13. バレーボール③ 応用技術の習得
14. バレーボール④ 試合の実践
15. まとめ

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 とくに使用しない。

《参考文献》 とくに使用しない。

その他

コード	履修科目名		(担当教員)			
b15011200 :	スポーツ実技2		(加藤 大門)			
単 位	1	期 別	秋学期	学 年	1 年次～	

到達目標

生涯スポーツを基本技術から学び、自主的にゲーム組み立てるようにする。

キーワード

スポーツ、コミュニケーション、健康

事前・事後学習

事前学習:次回行うスポーツの動画などを観て知識を高めておく。

事後学習:どうすればもっと上手くできるか考え次回にいかす。

授業内容

本授業では、生涯スポーツとして幅広い年齢層に親しまれているスポーツを、基本技術から学び、自主的にゲームを行いルールや審判方法など学習していく。

履修人数により種目を変更する場合がある。

成績評価方法

平常点:60%

レポート:40%

課題に対するフィードバック

次回授業時にコツや答えをフィードバックする。

授業計画

1. ガイダンス
2. バドミントン① ルールの把握と実施
3. バドミントン② 試合の組み立て
4. バドミントン③ シングルス、ダブルスの違い
5. 卓球① ルールの把握と実施
6. 卓球② 試合の組み立て
7. 卓球③ シングルス、ダブルスの違い
8. バスケットボール① ルールの把握と実施
9. バスケットボール② 試合の組み立て
10. バスケットボール③ 実践形式での審判方法
11. バレーボール① ルールの把握と実施
12. バレーボール② 試合の組み立て
13. バレーボール③ 実践形式での審判方法
14. バレーボール④ 自主的实践
15. まとめ

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 とくに使用しない。

《参考文献》 とくに使用しない。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b16001100 :	豊山法儀研究Ⅰ	(塚越 秀成)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	1 年次～

到達目標

真言宗豊山派総本山長谷寺に伝承された聲明・法儀を習得し、豊山派の教師として必要な経・讃を唱えられること

キーワード

事前・事後学習

授業内容

威儀を正すことを最重要視する為、法衣を着用して行う。
また、呼吸法、発声法、発音も含めて、聲明を修得する。
6月に行われる学校行事の「降誕会」に必要な讃を習得する。
また、9月に1週間、総本山長谷寺で行われる「宗派指定研修」に向けて必要な曲を習得する。
殊に宗派指定研修は弘法大師御影供二箇法要が主題となる為、前・後讃の6曲と祭文が中心となる。
併せて鏡鉢の所作も行う。
直綴、如法衣、白衣、足袋等を必ず着用。
頭髪は短髪。着色は認めない。

成績評価方法

平 常 点 :50%(主に出席と授業態度を評価します。)実技試験:40%(その都度達成度を評価します。)
レポート等:10%(文章力を評価します。)

課題に対するフィードバック

授業計画

1. ・座法、呼吸法、発音、発声及び聲明の楽理
・基本の旋律型の練習 ・般若心経の読誦 ・
四威儀作法
2. ・発声練習 ・基本の旋律型の練習 ・般若心
経の読誦 ・四智梵語
3. ・基本の旋律型の練習 ・般若理趣経の素読
・護身法の傳授 ・四智梵語
4. ・護身法 ・理趣経素読 ・四智梵語
5. ・護身法 ・理趣経素読 ・復習 ・心略梵語
・吉慶漢語
6. ・護身法 ・理趣経素読 ・復習 ・鏡鉢所作
・東方讃 ・降誕会関係の曲
7. ・護身法 ・理趣経素読 ・復習 ・祭文 ・四
智漢語 ・降誕会関係の曲
8. ・護身法 ・理趣経素読 ・復習 ・心略漢語
・降誕会関係の曲
9. ・護身法 ・理趣経素読 ・復習 ・西方讃 ・
降誕会関係の曲
10. ・護身法 ・理趣経素読 ・復習 ・理趣経中
曲 ・降誕会関係の曲
11. ・護身法 ・理趣経素読 ・復習 ・三陀羅尼
12. ・護身法 ・理趣経素読 ・復習 ・金胎禮懺
13. ・護身法 ・理趣経素読 ・復習 ・食事作法
・水施餓鬼
14. ・護身法 ・理趣経中曲 ・三陀羅尼 ・金胎
禮懺
15. ・総復習

テキストおよび参考文献等

《テキスト》『二箇法要法則』 豊山派宗務所発行
『常用經典』 豊山派宗務所発行
『豊山聲明大成』 豊山聲明大成刊行会
他プリント

《参考文献》

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b16001200 :	豊山法儀研究Ⅱ	(塚越 秀成)			
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	1 年次～

到達目標

真言宗豊山派総本山長谷寺に伝承された聲明・法儀をより深く習得し、法要・檀務等に出仕できること

キーワード

事前・事後学習

授業内容

宗派指定研修も終え、中には加行も修了した人もあり、僧侶としての自覚も少しずつ芽生えてきた頃であるので、聲明を通じて僧侶意識のさらなる向上の為、研鑽する。

12月に行われる学校行事の「報恩会」に向けて関係諸曲を修得する。

並びに2月17日から6日間、総本山長谷寺で行われる「宗派指定研修」に向けて、二箇法要・報恩講を修得する。

また、毎年東寺に於いて厳修される「後七日御修法」の道場が1月14日正午に開場されるので、必ず参拝する。

直綴、如法衣、白衣、足袋等を必ず着用。頭髮は短髪。着色しない。

成績評価方法

平 常 点:50%(主に出席と授業態度を評価します。)

実技試験:40%(その都度達成度を評価します。)

レポート等:10%(文章力を評価します。)

課題に対するフィードバック

授業計画

1. ・護身法 ・理趣経切々経 ・諸讃の復習 ・三寶禮 ・如来唄
2. ・護身法 ・理趣経切々経 ・諸讃の復習 ・理趣経中曲
3. ・護身法 ・理趣経切々経 ・諸讃の復習 ・金剛界唱禮Ⅰ
4. ・護身法 ・理趣経切々経 ・諸讃の復習 ・散華Ⅰ ・對揚Ⅰ
5. ・護身法 ・理趣経切々経 ・諸讃の復習 ・散華Ⅱ ・對揚Ⅱ
6. ・護身法 ・理趣経切々経 ・諸讃の復習 ・云何唄Ⅰ ・報恩講関係曲
7. ・護身法 ・理趣経切々経 ・諸讃の復習 ・云何唄Ⅱ ・報恩講関係曲
8. ・護身法 ・理趣経切々経 ・諸讃の復習 ・金剛界唱禮Ⅱ ・報恩講関係曲
9. ・護身法 ・理趣経切々経 ・諸讃の復習 ・金剛界唱禮Ⅲ ・報恩講関係曲
10. ・護身法 ・理趣経切々経 ・諸讃の復習 ・報恩講関係曲
11. ・護身法 ・理趣経切々経 ・諸讃の復習 ・報恩講 壽量品 ・報恩講関係曲
12. ・護身法 ・理趣経切々経 ・諸讃の復習 ・金胎禮懺 ・報恩講 出仕論議
13. ・護身法 ・理趣経切々経 ・金胎禮懺 ・報恩講関係の復習
14. ・護身法 ・理趣経切々経 ・金胎禮懺 ・二箇法要の復習
15. ・総復習

テキストおよび参考文献等

《テキスト》『二箇法要法則』『常用經典』『報恩講出仕論義』 豊山派宗務所発行、
『豊山聲明大成』 豊山聲明大成刊行会、
他プリント

《参考文献》

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b16002100	豊山教学史A	(早川 道雄)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	2年次～

到達目標

弘法大師空海の『十住心論』の内容とその背景が考察できる

キーワード

十住心、華嚴経、大日経、金剛頂経、空海

事前・事後学習

事前:テキストの指定範囲を熟読して予習すること

事後:二回目以降の授業冒頭における「前回の内容確認」に答えられるよう復習すること

授業内容

豊山教学史は、弘法大師空海と真言密教の思想を豊山教学の碩学の解釈を通じて考察するものである。春学期においては『十住心論』を取り上げる。本書は天長年間(824～833)に空海が著した真言宗の宗義の綱要書である。その内容は、真言宗の由来と教義の概要を述べるにとどまらず、当時日本に存在した南都六宗と天台・真言のみならず、小乗仏教、さらには仏教以外のインドおよび中国の思想・宗教をも、密教を最上とする立場から総合的に把握し、提示したものである。本書の思想史的意義を考えてみよう。テキストは『大乘仏典 日本・中国篇』(中央公論社)の第14巻「空海」の解説を用いる。

成績評価方法

平常点:50%

小テスト:50%

課題に対するフィードバック

最終授業時に、これまでの授業内容の総まとめを行なって、課題レポートの作成の際に必ず押さえるべき重要事項を確認する。

授業計画

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1. 秘密曼荼羅としての世界① | 9. 『大日経』世界と十住心の構造③ |
| 2. 秘密曼荼羅としての世界② | 10. 空海の危機① |
| 3. 秘密曼荼羅としての世界③ | 11. 空海の危機② |
| 4. 曼荼羅としての華嚴世界の構造① | 12. 空海の危機③ |
| 5. 曼荼羅としての華嚴世界の構造② | 13. 実在世界とその意義① |
| 6. 曼荼羅としての華嚴世界の構造③ | 14. 実在世界とその意義② |
| 7. 『大日経』世界と十住心の構造① | 15. 実在世界とその意義③ |
| 8. 『大日経』世界と十住心の構造② | |

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 講師が準備し、配布する。

《参考文献》 講師が準備し、配布する。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b16002200	豊山教学史B	(早川 道雄)			
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	2年次～

到達目標

『金剛頂経』の内容とその意義が考察できる

キーワード

五相成身観、一切義成就菩薩、五相成身観、後期密教

事前・事後学習

事前:テキストの指定範囲を熟読すること

事後:二回目以降の授業冒頭における「前回の内容の確認」に答えられるよう復習すること

授業内容

豊山教学史は、弘法大師空海と真言密教の思想を豊山教学の碩学の解釈を通じて読解するものである。秋学期においては『金剛頂経』(『金剛頂一切如来真実撰大乘現証大教王経』)を取り上げる。『金剛頂経』は、真言宗においては『大日経』と並ぶ根本經典である。本経の冒頭において、色究竟天より毘盧遮那を取り囲んで降下した一切如来は、なすべき難行をすべて成し遂げ、深い瞑想状態に入っているや成道寸前(かつその最後の一步が踏み出せないでいる)一切義成就菩薩に対して、「五相成身観」を為すべきことを解説する。それは、自心の観察に始まり、月輪と五鈷金剛杵を瞑想して、修行者と毘盧遮那との合一を行うための五段階の観法(①通達菩提心②修菩提心③成金剛心④証金剛心⑤仏心円満)である。その根本にあるのは、シンボル(象徴)を操作すること、すなわち、大乘仏教において要求される修行の全過程が、真言の持つ力・権能によって代替が可能だとする発想である。このような『金剛頂経』の論理を詳細な解説と共に読んで行く。

成績評価方法

平常点:50%

小テスト:50%

課題に対するフィードバック

最終授業時に、これまでの授業内容の総まとめを行って、課題レポートの作成の際に必ず押さえるべき重要事項を確認する。

授業計画

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1. 『金剛頂経』における密教の論理 | 9. 曼荼羅としての世界とその構造 |
| 2. 『金剛頂経』における密教の論理 | 10. 『大日経』と『金剛頂経』 |
| 3. 覚の世界と曼荼羅の世界 | 11. 『大日経』と『金剛頂経』 |
| 4. 覚の世界と曼荼羅の世界 | 12. 『大日経』と『金剛頂経』 |
| 5. 覚の世界と曼荼羅の世界 | 13. 現世成就という主題 |
| 6. 仏説の背後にあるもの | 14. 現世成就という主題 |
| 7. 仏説の背後にあるもの | 15. まとめ作業 |
| 8. 曼荼羅としての世界とその構造 | |

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 講師が準備し、配布する。

《参考文献》 講師が指示する。

その他

コード	履修科目名		(担当教員)			
b16003100 :	智山法儀研究1A(3A)		(中野 泰倫)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	1年次～	

到達目標

真言宗智山派に伝承する理趣三昧法要に用いる声明が習得できる

キーワード

智山声明、仏教音楽、実修

事前・事後学習

お次第の手入れ、確認。発声練習。

授業内容

相承するところの博士を以て実際に声明を自ら唱えることによって、仏教、密教を体感することに重点を置く。概説、発声練習より始め、前讃、理趣経、後讃を中心とした理趣三昧法要の声明の指南。

成績評価方法

出席数及び実修成果

課題に対するフィードバック

実修に対して個々にフィードバックを行う。

授業計画

1. 事相解説
2. 声明解説
3. 前讃1
4. 前讃2
5. 前讃3
6. 祭文、三礼、如来唄、表白
7. 唱礼1
8. 唱礼2
9. 理趣経1
10. 理趣経2
11. 後讃1
12. 後讃2
13. 後讃3
14. 通し稽古1
15. 通し稽古2

テキストおよび参考文献等

《テキスト》『智山法要次第』総本山智積院刊

《参考文献》『智山声明大典』大本山川崎大師平間寺刊

その他

コード	履修科目名		(担当教員)			
b16003200 :	智山法儀研究1B(3B)		(中野 泰倫)			
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	1年次～	

到達目標

真言宗智山派に伝承する二箇法要に用いる声明が習得できる

キーワード

智山声明、仏教音楽、実修

事前・事後学習

お次第の手入れ。発声練習。

授業内容

相承するところの博士を以て実際に声明を自ら唱えることによって、仏教、密教を体感することに重点を置く。

唄匱、散華付對揚、唱禮、前讀、理趣經(調声)、後讀を中心とした二箇法要の声明の指南。

成績評価方法

出席数及び実修成果

課題に対するフィードバック

実修に対して個々にフィードバックを行う。

授業計画

1. 事相概説
2. 声明概説
3. 祭文、三礼、如来唄、表白
4. 云何唄
5. 散華、對揚1
6. 散華、對揚2
7. 散華、對揚3
8. 唱礼
9. 前讀
10. 理趣經(調声)1
11. 理趣經(調声)2
12. 理趣經(調声)3
13. 後讀
14. 通し稽古
15. 法要実習

テキストおよび参考文献等

《テキスト》『智山法要次第』総本山智積院刊

《参考文献》『智山声明大典』大本山川崎大師平間寺刊

その他

コード	履修科目名		(担当教員)			
b16004100	智山法儀研究2A(4A)		(中野 泰倫)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	1年次～	

到達目標

着衣、威儀(座法等の所作)、法具の名称、道場、壇の荘厳が習得できる

キーワード

仏道修行の基礎。威儀基礎。法具。法衣。

事前・事後学習

テキストの確認。法具、法衣の名称暗記。着脱実修。

授業内容

法衣の種類及び着方、持物、道具、荘厳等、法要実修に入る前の基礎の習得。

成績評価方法

出席数及び受講態度

課題に対するフィードバック

各項目ごとにフィードバックを行う。

授業計画

1. 事相概説1
2. 事相概説2
3. 智山概説1
4. 智山概説2
5. 法衣解説1
6. 法衣解説2
7. 法衣着衣、歩行、座相解説
8. 道場荘厳解説1
9. 道場荘厳解説2
10. 道場荘厳解説3
11. 各種道具解説1
12. 各種道具解説2
13. 供養解説1
14. 供養解説2
15. 総括

テキストおよび参考文献等

《テキスト》『智山法要便覧第一集』真言宗智山派宗務庁刊
《参考文献》

その他

コード	履修科目名		(担当教員)			
b16004200 :	智山法儀研究2B(4B)		(中野 泰倫)			
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	1年次～	

到達目標

二簡法要の実修を繰り返し、法要の所作を習得できる

キーワード

法要準備、所作、実修。

事前・事後学習

お次第の確認。法要準備、次第暗記。

授業内容

二簡法要の解説、実修により、一座の法要の役者の所作指南。

成績評価方法

出席数及び実修成果

課題に対するフィードバック

実修に対して個々にフィードバックを行う。

授業計画

1. 法要解説
2. 荘厳
3. 集会
4. 上堂、入堂、着座
5. 奠供、祭文
6. 奠供、祭文2
7. 表白、唄、散華
8. 表白、唄、散華2
9. 前讀、後讀
10. 導師(唱礼)
11. 理趣經(行道)
12. 理趣經(行道)
13. 理趣經(行道)
14. 導師(礼仏、回向)、退堂
15. 法要実修

テキストおよび参考文献等

《テキスト》『智山法要便覧第一集』真言宗智山派宗務庁刊
《参考文献》智山教学研修処二簡法要テキスト(複写)

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b16005100 :	智山教学史A～真言密教の基礎をまなぶ～	(田中 悠文)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	1 年次～

到達目標

『弘法大師行状絵詞』を読み密教の歴史・教理・実践の基礎を学び、また古文・漢文・古文書の基本を身につけ、日本文化の重層性を知ることができる。弘法大師の生涯を通じアジアの宗教について多角的意見交換ができる。

キーワード

『三教』(儒教・仏教・道教)『三道』(神道・儒教・仏教)『密教』

事前・事後学習

事前学習 授業で紹介した参考書を活用して指定された用語や人物、典籍などについて調べてノートにまとめること 事後学習 毎回講義内容をノートにまとめること

授業内容

南北朝時代の東寺において編纂された『弘法大師行状絵詞』を読み解くことを通じて、弘法大師の生涯をはじめ真言密教の歴史・教理・実践などの各側面を理解し、文字情報のみにとどまらず図像などの媒体を積極的に活用して人物や文化について多角的かつ総合的な理解ができるようになる

成績評価方法

出席率60% ノート提出20% 授業内レポート20%

課題に対するフィードバック

1 提出されたノートにコメントを付す 2 提出された授業内小レポートにコメントを付す
3 課題内容についての短い報告を認める

授業計画

- 『弘法大師行状絵詞』とは① 所蔵者、筆者と絵師、編纂の経緯、伝本など
- 『弘法大師行状絵詞』とは② 弘法大師伝の類本と参考書
- 巻一序・第一段・誕生奇瑞 同第二段・童稚奇異
- 三教① 同第三段・四王侍衛 同第四段・俗典讃仰
- 三教② 同第五段・出家學法
- 三教③ 卷二・第一段・登壇受戒
- 密教① 同第二・聞持修行 同第三段・室戸伏竜
- 同第四段・金剛定額
- 同第五段・老嫗授鉢
- 同第六段・虚空書写
- 同第七段・釈迦涌現
- 密教② 同第八段・久米感経
- 密教③ 卷三・第一段・渡海入唐 同第二段・大使替書 同第三段・長安奏聞
同第四段・存問勅使
- 密教④ 同第五段・青龍受法 卷四・第一段・珍賀懺謝 同第二段・修防護法
- 密教⑤ 同第三段・図像写経 同第四段・恵果附属 同第五段・石碑建立 同第六段・多生誓約

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 講師が適宜用意する。

《参考文献》 続日本の絵巻十・十一『弘法大師行状絵詞上・下』1990,中央公論社
『弘法大師行状絵巻の世界ー永遠への飛翔ー』2000,東寺宝物館
長谷宝秀編『弘法大師行状絵詞伝』1934,弘法大師一千百年御忌事務局
長谷宝秀編『弘法大師伝全集』1935,六大大新報社

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b16005200	智山教学史B～真言密教の基礎をまなぶ～	(田中 悠文)			
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	1 年次～

到達目標

『弘法大師行状絵詞』を読み密教の歴史・教理・実践の基礎を学び、また古文・漢文・古文書の基本を身につけ、日本文化の重層性を知ることができる。弘法大師の生涯を通じアジアの宗教について多角的意見交換ができる。

キーワード

『三教』(儒教・仏教・道教)『三道』(神道・儒教・仏教)『密教』

事前・事後学習

事前学習 授業で紹介した参考書を活用して指定された用語や人物、典籍などについて調べてノートにまとめること 事後学習 毎回講義内容をノートにまとめること

授業内容

南北朝時代の東寺において編纂された『弘法大師行状絵詞』を読み解くことを通じて、弘法大師の生涯をはじめ真言密教の歴史・教理・実践などの各側面を理解し、文字情報のみにとどまらず図像などの媒体を積極的に活用して人物や文化について多角的かつ総合的な理解ができるようになる

成績評価方法

出席率60%ノート提出20%授業内レポート20%

課題に対するフィードバック

1.提出されたノートにコメントを付す2.提出された授業内小レポートにコメントを付す3.課題内容についての短い報告を認める

授業計画

1. 巻四・第七段・宮中壁字同第八段・流水点字
2. 同第九段・梵僧授経
3. 巻五・第一段・三鈷投所 同密教⑥第二段・帰朝奏表 三道①同第三段・灑水生樹
4. 同第四段・久米講経 同第五段・大内書額
5. 三教④同第六段・清凉宗論
6. 巻六・第一段・東大寺蜂 密教⑦同第二段・高雄練行 同第三段・伝教灌頂
7. 密教⑧同第四段・円堂鎮壇 第五段・濁水手水
8. 密教⑨巻七・第一段・南山表請 三道②同第二段・明神衛護 同第三段・高野結界同第四段・堂塔草創
9. 密教⑩同第五段・心経講讃 巻八・第一段・東寺勅給三道③同第二段・八幡鎮座三道④同第三段・稻荷來影
10. 密教⑪三道⑤同第四段・神泉祈雨 巻九・第一段・講堂起立同第二段・舍利灌浴同第三段・室生修練
11. 密教⑫巻十・第一段・正月修法
12. 同第二段・門人遺誠
13. 同第三段・真影図画
14. 同第四段・南山入定
15. 巻十一・第二段・官位追贈 同第三段・大師諡号

テキストおよび参考文献等

《テキスト》講師が適宜用意する。

《参考文献》続日本の絵巻10.11『弘法大師行状絵詞上・下』1990,中央公論社
『弘法大師行状絵巻の世界—永遠への飛翔—』2000,東寺宝物館,
長谷宝秀編『弘法大師行状絵詞伝』1934,弘法大師一千百年御忌事務局,長谷宝秀編『弘法大師伝全集』1935,六大大新報社

その他